EPSON

EasyMP™
活用ガイド

EMP-1715/1705

目次

無線LAN接続を行う方へ

ネットワーク経由でコンピュータからプロジェクターを操作する

アクセスポイントへの無線LAN接続

コンピュータを使ってプロジェクターの設定・監視・制御をする

PC Freeを使ったプレゼンテーション

シナリオの準備 (EMP SlideMaker2の使い方)

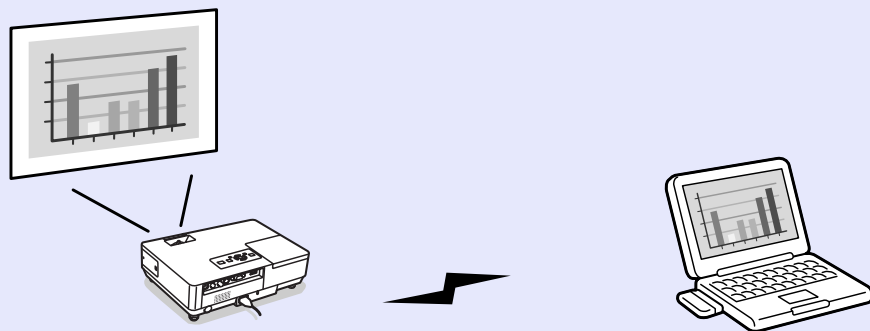
付録

無線LAN接続を行う方へ

ここでは、プロジェクターとコンピュータを無線LANで接続するときの概要と、留意事項を説明します。

無線LANを使ってプロジェクターとコンピュータを接続する方法には、「かんたんモード」と「マニュアルモード」の2つがあります。

かんたんモード

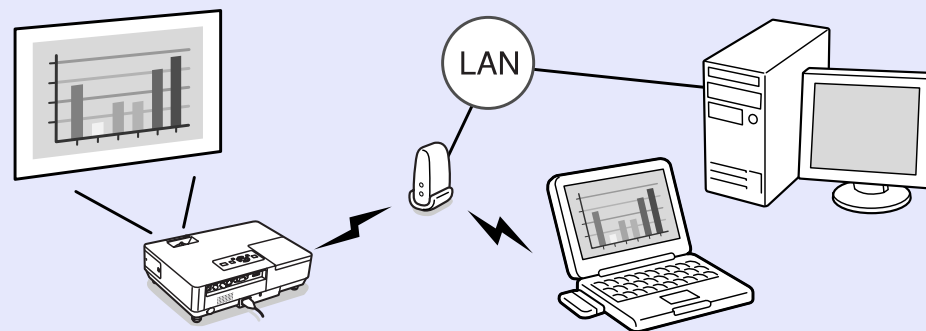
かんたんモードでは、複雑なネットワークの設定をすることなく、プロジェクターとコンピュータを簡単に接続できます。※
無線LANで素早く接続したいときに、かんたんモードをご利用ください。

かんたんモードは、アドホック接続(共通のESSIDを持つコンピュータ同士を接続)を使った接続です。以下のどちらかを持つコンピュータと接続できます。

- 無線LANカード
- 無線LAN機能内蔵コンピュータ

かんたんモードで接続する方法は『かんたん接続ガイド』を参照してください。

※ かんたんモードでは、プロジェクターが持つ ESSID が一時的にコンピュータに割り当てられるため、コンピュータ側での設定操作は必要ありません。切断処理を行うと、コンピュータのネットワーク設定は自動的に元の状態に戻ります。

マニュアルモード

マニュアルモードでは、無線LANアクセスポイントを経由して、ネットワークシステムに接続できます。
ネットワークシステムの一部として接続したいとき、セキュリティ対策をとりたいときなどにマニュアルモードをご利用ください。

マニュアルモードで接続する方法は「アクセスポイントへの無線LAN接続」☛ p. 21をご覧ください。

接続可能な無線LANカードとアクセスポイントの条件

同梱の無線LANユニットは、IEEE802.11g、802.11bおよび802.11aに準拠した以下の製品と接続できます。

- 無線LANカード
- 無線LAN機能内蔵コンピュータ
- アクセスポイント

ただし、IEEE802.11gではコンピュータで使用する無線LAN機器によって、アドホック接続できないことがあります。詳しくは各無線LAN機器の仕様をご確認ください。

同梱の無線LANユニットの仕様

使用周波数帯域	2.4GHz帯、5.2GHz帯(W52)、5.3GHz帯(W53)
変調方式	802.11b　：DS-SS方式 802.11a/g ：OFDM方式
想定干渉距離	20m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

電波に関する安全上の注意

同梱の無線LANユニットを使用する際は、次の点に注意してください。

- 心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼし、誤作動の原因となることがあります。お使いの前に、電磁妨害が発生しないことを十分に確認した上で、お使いください。
- 医療機器に電磁妨害をおよぼし、誤動作の原因となることがあります。お使いの前に、電磁妨害が発生しないことを十分に確認した上で、お使いください。
- 電子レンジの近くでお使いにならないでください。電子レンジから発生される電磁妨害により、正しく無線通信できなくなります。
- 飛行機での使用は国によって制限される場合があります。お使いの前に、制限がないかを十分確認した上で、お使いください。

周波数に関する使用上の注意

同梱の無線LANユニットの使用周波数帯は、2.4GHz帯/5GHz帯です。この周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。

無線LANを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。万一、この無線LANから移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用をやめ電波の発生を停止してください。

その他、この無線LANから移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、インフォメーションセンターにお問い合わせください。

国外へ持ち出す場合の注意

無線LANユニットは販売国の仕様に基づき同梱されています。

無線LANユニットは、使用する国によりチャンネル番号や使用周波数に制限があるため、同梱の無線LANユニットを販売国以外で使用する場合はご注意ください。

電波法による規制

電波法により次の行為は禁止されています。

- 改造および分解の禁止（アンテナ部分を含む）
- 適合証明ラベルの剥離
- 802.11ａ（5GHz帯）の屋外使用

無線LAN使用時のセキュリティに関する注意

（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線LANでは、ネットワークケーブルを使用する代わりに、電波を利用して情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- **通信内容を盗み見られる**
  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報、メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

- **不正に侵入される**
  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、次の行為をされてしまう可能性があります。
  - 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
  - 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
  - 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
  - コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルにしたがって行ってください。
なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。
本機でのセキュリティの設定について☛「無線LANのセキュリティ対策」p. 42
セキュリティの設定などについて、お客様がご自分で対処できない場合には、インフォメーションセンターまでお問い合わせください。
当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分に理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

接続時の制限事項

Network Presentationでコンピュータの映像を投写するときは､以下の制限事項があります｡ご確認ください｡

対応解像度

投写可能なコンピュータの画面解像度は､次のとおりです｡次の解像度の場合は､コンピュータに表示されている映像をそのまま投写できます｡UXGAを超える解像度のコンピュータとは接続できません｡

実モニタ

- VGA (640×480)
- SVGA (800×600)
- XGA (1024×768)
- SXGA (1280×960)
- SXGA (1280×1024)
- SXGA+ (1400×1050)
- UXGA (1600×1200)

仮想ディスプレイ(Windowsの場合)

- SVGA (800×600)
- XGA (1024×768)
- SXGA (1280×1024)
- SXGA+ (1400×1050)

以下のメッセージが表示された場合は､コンピュータの解像度をSXGA以下に設定してから接続してください｡

SXGAを超える解像度をサポートしていないプロジェクターがあります｡パソコンの解像度を下げて再接続してください｡

縦横比が特殊な画面のコンピュータの場合は､前述の対応解像度7種類のうちから横方向の画素数が一致する解像度で投写されます｡このとき､横長画面では縦方向の余白部分が､縦長画面では横方向の余白部分が黒く投写されます｡

表示色

投写可能なコンピュータの画面の色数は､次のとおりです｡

Windows	Macintosh
16ビットカラー	約32000色(16ビット)
24ビットカラー	ー
32ビットカラー	約1670万色(32ビット)

仮想ディスプレイの動作保証は16ビット･32ビットカラーです｡

接続台数

1台のコンピュータに､最大4台までのプロジェクターを接続して同時に映像を投写できます｡
複数のコンピュータから1台のプロジェクターに同時に接続することはできません｡

その他

- 無線LANの通信速度が低速の場合､接続しても切断されやすい状態となり、予期しないときに切断されることがあります。
- 音声は伝送されません。
- 動画を再生する場合、コンピュータ上で再生した場合と比べて、スムーズに再生されません。
- DirectXの一部の機能を使っているアプリケーションは､正しく表示できない場合があります。(Windowsのみ)
- MS-DOSプロンプトの全画面表示は投写できません｡(Windowsのみ)

ネットワーク経由でコンピュータからプロジェクターを操作する

コンピュータとプロジェクターをEMP NS Connectionを使って接続しているときの操作方法を説明します。「かんたんモード」「マニュアルモード」のどちらの方法で接続していても同じように利用できます。

各アイコンの名称と働き

コンピュータとプロジェクターをネットワーク接続すると、次のツールバーがコンピュータの画面に表示されます。

アイコン	名称	働き
ALL	操作対象プロジェクターの選択	操作対象プロジェクターの選択ダイアログを表示します。☛ p. 11
	停止	プロジェクターと接続したまま、コンピュータ画面の投写を停止します。プロジェクターは特定の画面※を投写します。
	表示	プロジェクターでコンピュータ画面を投写します。
	一時停止	プロジェクターと接続したまま、コンピュータ画面の投写を一時停止します。
	プレゼンテーションモード	選択されているプロジェクターが、プレゼンテーションモードになります。プレゼンテーションモードのときは、PowerPointのスライドショーの映像だけがプロジェクターに投写されます。
	プロジェクター制御	プロジェクター制御画面が表示されます。プロジェクター制御画面では、「A/Vミュート」「PCソース切替」「Videoソース切替」ができます。
	動画再生モード	動画再生モード画面が表示されます。コンピュータ内の動画ファイルをプロジェクターで投写できます。☛ p. 13
	プレビュー	マルチスクリーンディスプレイのプレビュー画面が表示されます。
	オプション設定	環境設定ダイアログが表示されます。☛ p. 19
切断する	切断する	プロジェクターとの接続を終了します。
	ツールバー表示切り替え（かんたんモード時のみ）	「Full」「Normal」「Simple」で表示するボタンを切り替えます。

※ 特定の画面は以下の画面です。

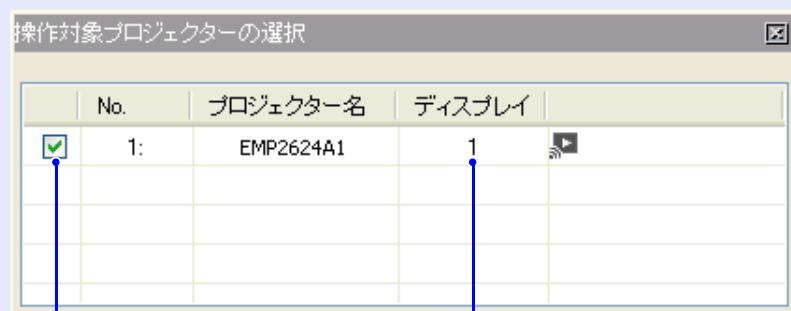
操作対象のプロジェクターを選択する

複数のプロジェクターと接続しているとき、操作対象とするプロジェクターを選択します。

操作

1 (「操作対象プロジェクターの選択」)ボタンをクリックします。

操作対象プロジェクターの選択画面が表示されます。

2 操作対象とするプロジェクターをクリックしてチェックマークを付けます。

3 画面右上の「 」をクリックして、操作対象プロジェクターの選択画面を閉じます。

投写を停止する/一時停止する/再開する

プロジェクターに接続した状態のまま、コンピュータ画面の投写を停止、一時停止、再開します。

操作

1 操作対象のプロジェクターを選択します。☛ p.11

2 以下のどれかをクリックします。

「停止」ボタン:コンピュータ画面の投写を停止します。プロジェクターにはImage.jpg画面が投写されます。
「表示」ボタン:コンピュータ画面の投写を開始します。
「一時停止」ボタン:コンピュータ画面の投写を一時停止します。プロジェクターには一時停止した時点の映像が投写されます。一時停止中に「一時停止」ボタンをクリックすると一時停止が解除されます。

PowerPointのスライドショーだけを投写する(プレゼンテーションモード)

プレゼンテーションモードにすると、コンピュータ上でPowerPointのスライドショーを実行したときだけプロジェクターに映像が投写されます。スライドショー以外を見せたくないときに便利です。Macintoshでは Keynoteがプレゼンテーションモードに対応しています。

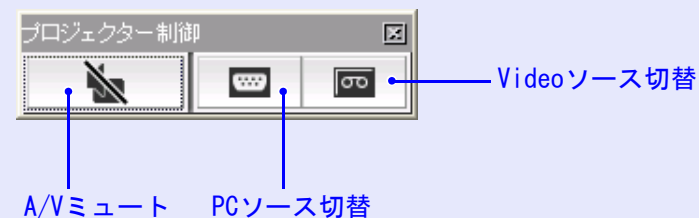
操作

1. 操作対象のプロジェクターを選択します。☛ p.11
2. (「プレゼンテーションモード」)ボタンをクリックします。

   プレゼンテーションモードになります。
3. プレゼンテーションモード中に、もう一度 ボタンをクリックするとプレゼンテーションモードが解除されます。

A/Vミュートやソースの切り替えをする

操作

1. 操作対象のプロジェクターを選択します。☛ p.11
2. (「プロジェクター制御」)ボタンをクリックします。
3. 「A/V ミュート」または「PC ソース切替」「Video ソース切替」をクリックします。

コンピュータ内の動画を投写する(動画転送)

コンピュータ内の動画ファイルをプロジェクターで投写できます。投写できるファイルは、MPEGファイル(.mpg、.mpeg)です。動画転送は1台のプロジェクターに対して行います。複数台のプロジェクターに同時に動画転送することはできません。また、通信方式や電波状況によって映像や音が飛んだり止まったりする場合もあります。

操作

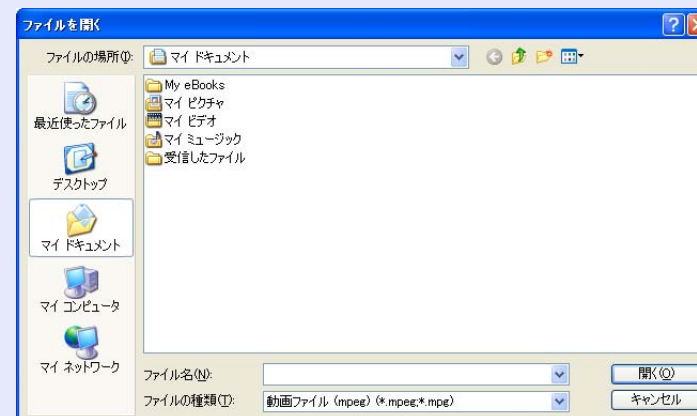
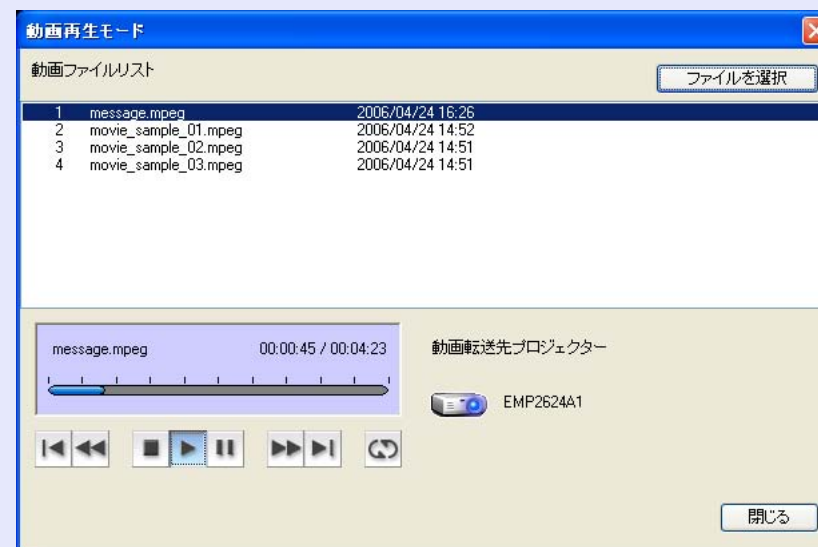
1. (「動画再生モード」)ボタンをクリックします。

   プロジェクターを選択する画面が表示されます。

2. 動画再生を行うプロジェクターを選択して「OK」ボタンをクリックします。

   動画ファイルリスト画面が表示されます。

3. 「ファイルを選択」ボタンをクリックします。

4. 再生する動画ファイルを選択して「開く」ボタンをクリックします。

   動画ファイルリスト画面に戻ります。選択したファイルは、動画ファイルリストに追加されます。

5 以下の操作ボタンを使って動画ファイルの再生、停止を操作します。

	再生中のファイルの先頭から再生します。
	再生中のファイルを早戻しします。
	再生を停止します。
	ファイルを再生します。
	再生を一時停止します。
	再生中のファイルを早送りします。
	次のファイルの先頭から再生します。
	ファイルリストを順番に繰り返し再生します。

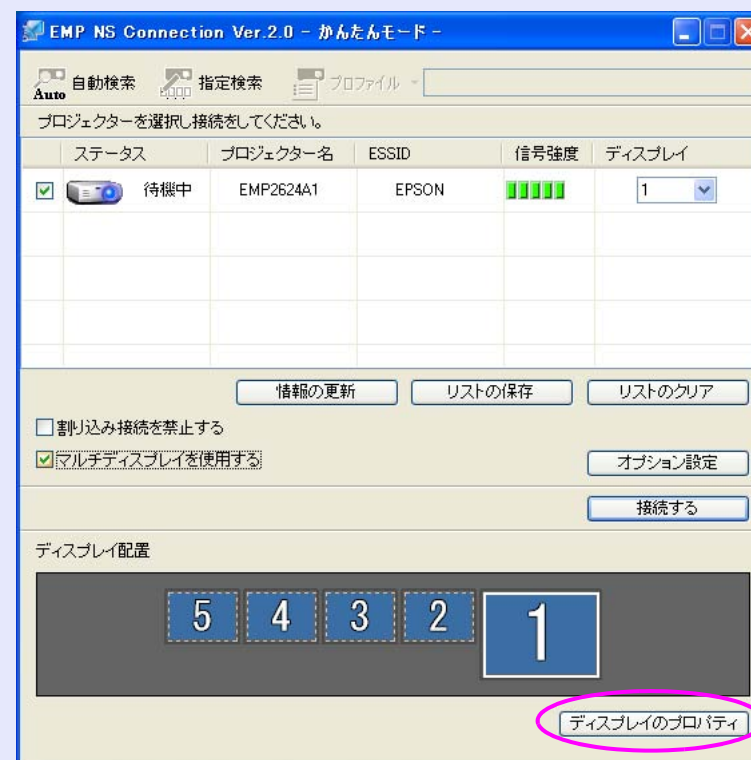
6 「閉じる」ボタンをクリックすると、動画転送が終了します。

「マルチスクリーンディスプレイ」機能を使うと、コンピュータに複数の仮想ディスプレイを設定し、それぞれの映像をプロジェクターで投写できます。

- Macintosh の場合は、マルチスクリーンディスプレイ機能を使用するにはコンピュータに実際にモニタを接続しておく必要があります。Windowsの場合は、EMP NS Connectionが用意している仮想ディスプレイドライバをインストールしておくと、実際にモニタを接続しなくても仮想ディスプレイを設定できます。
- Windowsの場合、セカンダリモニタとして実モニタを接続しているときには、その画面の映像は投写できません。
- プロジェクターの色合いを合わせることができます。☛『取扱説明書』「数台設置の色調整(マルチスクリーンカラーアジャストメント)」

仮想ディスプレイの配置を設定する(コンピュータの設定)

操作

「ディスプレイのプロパティ」をクリックします。

モニタアイコンをドラッグして、配置を決めます。

Windowsの場合

- Windowsでは「スタート」−「コントロールパネル」−「画面」で画面のプロパティ画面を表示することができます。

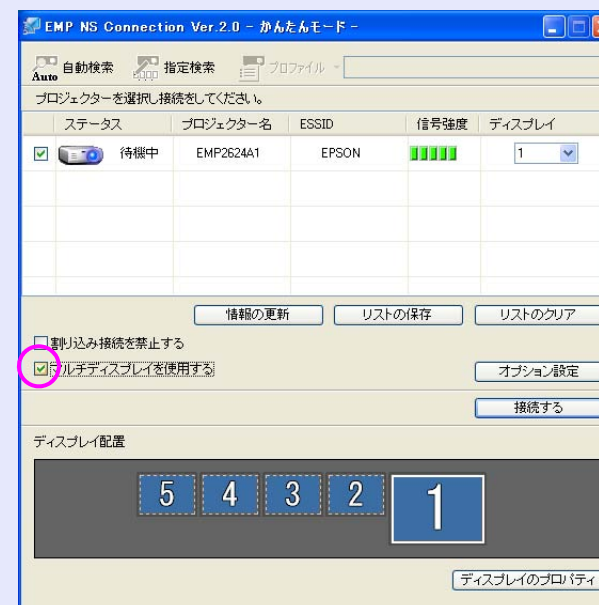
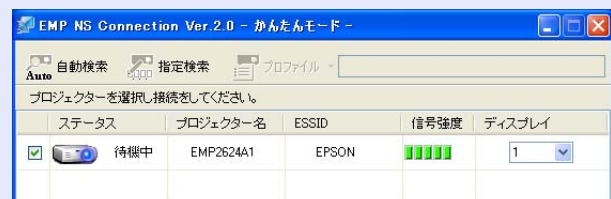
Macintoshの場合

- Macintoshでは環境設定内の「ディスプレイ環境設定の表示」で表示することができます。

プロジェクターと接続するときの操作

操作

1. コンピュータでWindowsを起動し、「スタート」−「プログラム」(または「すべてのプログラム」)−「EPSON Projector」−「EMP NS Connection」の順に選択します。
2. 「マルチディスプレイを使用する」にチェックマークを付けます。

   画面の下側に「ディスプレイ配置」と「ディスプレイのプロパティ」ボタンが追加表示されます。ディスプレイの配置を変更するには、「ディスプレイのプロパティ」ボタンをクリックします。

3 「ディスプレイ」から割り当てる仮想ディスプレイの番号を選択して、どのプロジェクターでどの映像を投写するのかを設定します。

4 「接続する」ボタンをクリックします。

マルチスクリーンディスプレイのプレビュー表示

「マルチスクリーンディスプレイ」機能を利用しているとき、設定した仮想ディスプレイの配置状態をプレビューできます。

操作

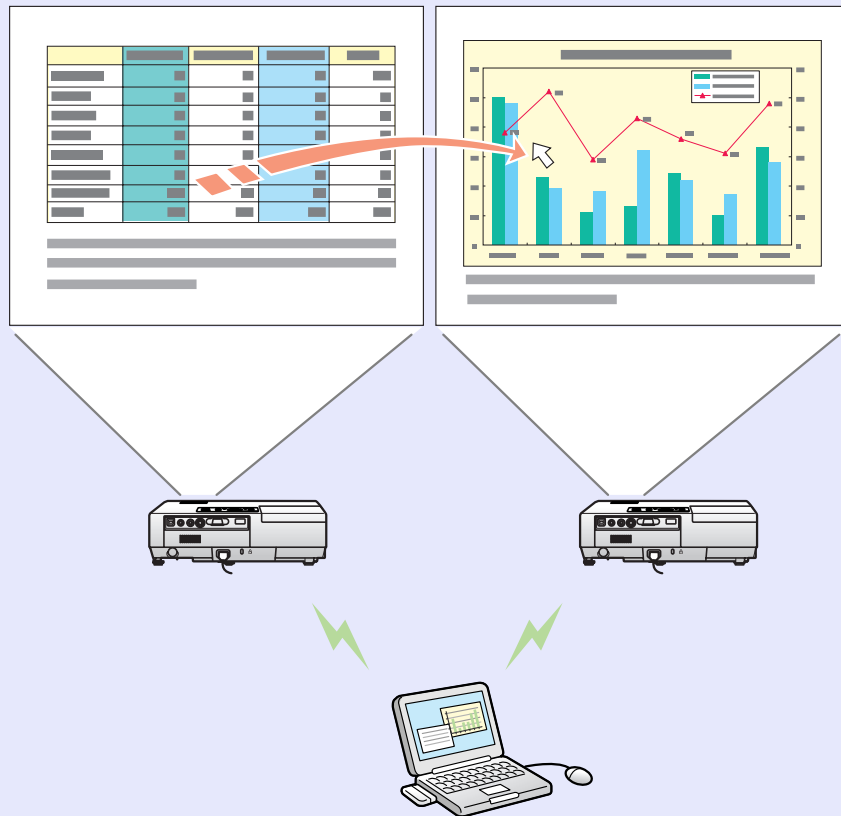
1 EMP NS Connectionのツールバーで （「プレビュー」）ボタンをクリックします。

設定されているディスプレイ配置がプレビュー表示されます。

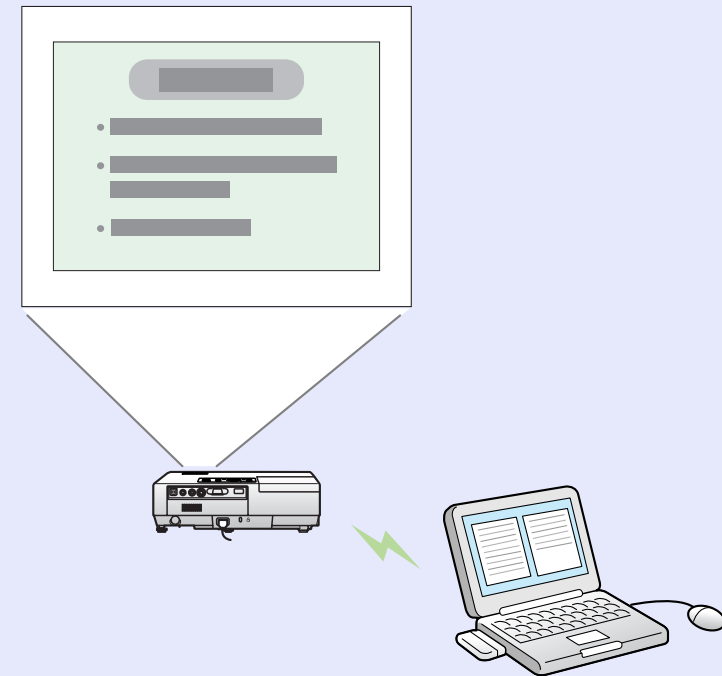
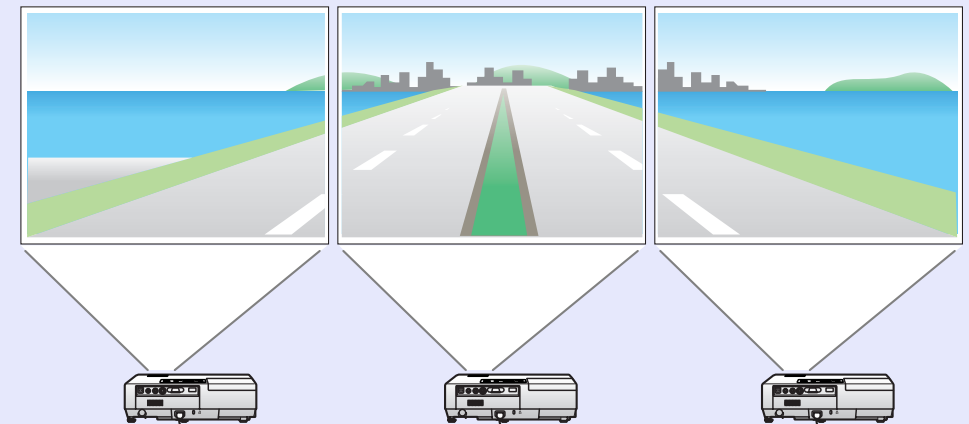
2 各画面をクリックすると、一つの画面が画面プレビューウィンドウ全体に拡大表示されます。

仮想ディスプレイの配置例

仮想ディスプレイの配置を工夫することで、プレゼンテーションを行うときに見せたい映像だけをプロジェクターに投写したり、左右に違った映像を配置して臨場感のある投写にしたりできます。

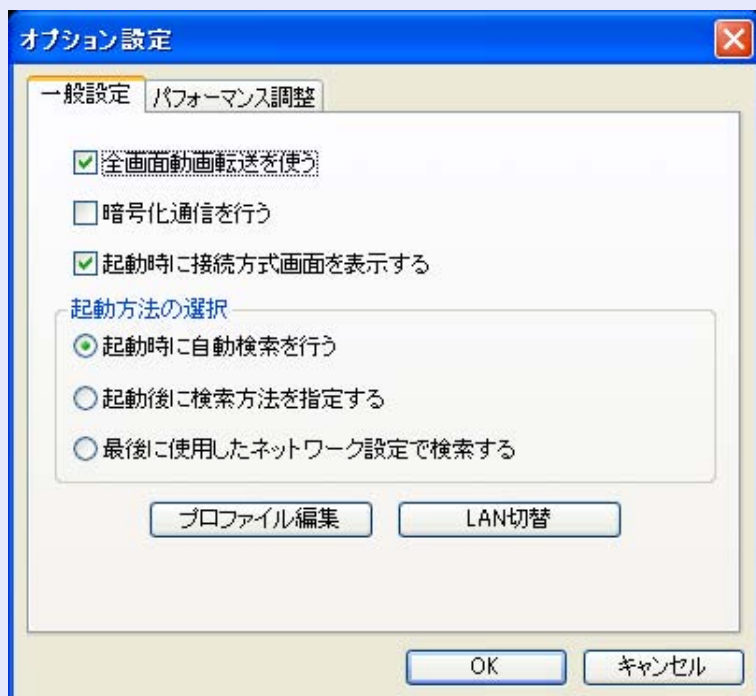
配置例 1

配置例 2

配置例 3

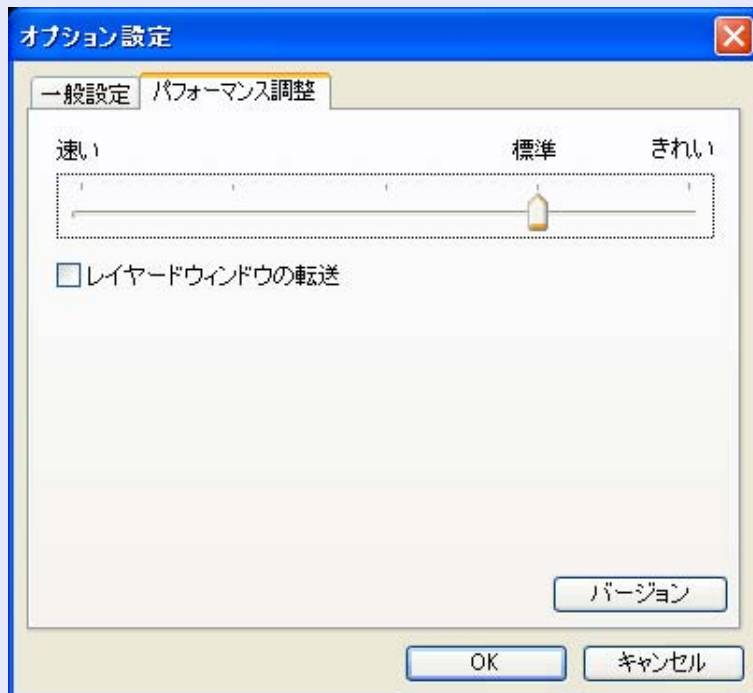
EMP NS Connectionの環境を設定する

EMP NS Connection起動時の処理方法などの環境を設定します。

操作

1. **EMP NS Connectionのメイン画面で「オプション設定」ボタンをクリックします。**
   環境設定画面が表示されます。
2. **各項目を設定します。**

一般設定タブ

全画面動画転送を使う	Windowsの場合のみ Windows Media Playerを全画面表示したときに以下の設定をします。 全画面動画転送を使う／使わないを設定します。
暗号化通信を行う	暗号化通信を行う／行わないを設定します。
起動時に接続方式画面を表示する	EMP NS Connectionの起動時に「かんたんモード」／「マニュアルモード」の選択画面を表示する／しないを設定します。 プロジェクターに送信するコンピュータ映像のデータを暗号化することができます。データを暗号化するとセキュリティは確保されますが、パフォーマンスが悪くなります。
起動方法の選択	EMP NS Connection起動時に実行するプロジェクターの検索方法を以下から選択します。 「起動時に自動検索を行う」 「起動後に検索方法を指定する」 「最後に使用したネットワーク設定で検索する」
プロファイル編集	プロファイル編集ダイアログが表示されます。☛ p. 39
LAN切替	Windowsの場合のみ ネットワークインターフェース切り替えダイアログが表示されます。使用するネットワークアダプタ(NIC)の指定変更ができます。

パフォーマンス調整タブ

調整用スライドバー	「速い」「標準」「きれい」でパフォーマンスを調整できます。 動画の投写映像が途切れるような場合は、「速い」側へ設定してください。
レイヤードウィンドウの転送	Windowsの場合のみ レイヤードウィンドウを転送する／しないを設定します。 アプリケーションによってはレイヤードウィンドウを使った画面表示をしていることがありますのでその場合は「転送する」に設定してください。

ツールバーの をクリックするとパフォーマンス調整タグのみ表示されます。

アクセスポイントへの無線LAN接続

ここでは、既存のネットワークシステムに接続された無線LANアクセスポイントを経由して、コンピュータをプロジェクターに接続する方法を説明します。

接続までの流れ

普段、アクセスポイントまたは有線LANを使ってコンピュータをネットワークシステムに接続して使っている場合は、コンピュータ側のネットワーク設定はそのままで利用できます。コンピュータにEasyMP Softwareの中のEMP NS Connectionをインストールしてください。プロジェクター側はネットワーク設定を行います。
これらの方法で接続すると、ネットワークを介してコンピュータの映像をプロジェクターで投写できることに加えて、プロジェクターの状態をコンピュータから監視することができます。

コンピュータ側の準備

☛ p. 23

事前に以下の作業を行ってください。
・コンピュータをネットワーク接続できる状態にする
・EasyMP Softwareをインストールする

プロジェクター側の準備

☛ p. 24

・プロジェクターのネットワーク設定

コンピュータをネットワーク接続できる状態にする

コンピュータを使って、ネットワーク(LAN)に参加できるように設定します。
すでに設定済みの場合は、ここでの設定は必要ありません。

Windowsの場合

コンピュータの接続設定はLANカードに添付のユーティリティソフトを使って行います。ユーティリティソフトの使用方法は、お使いのLANカードの『取扱説明書』をご覧ください。

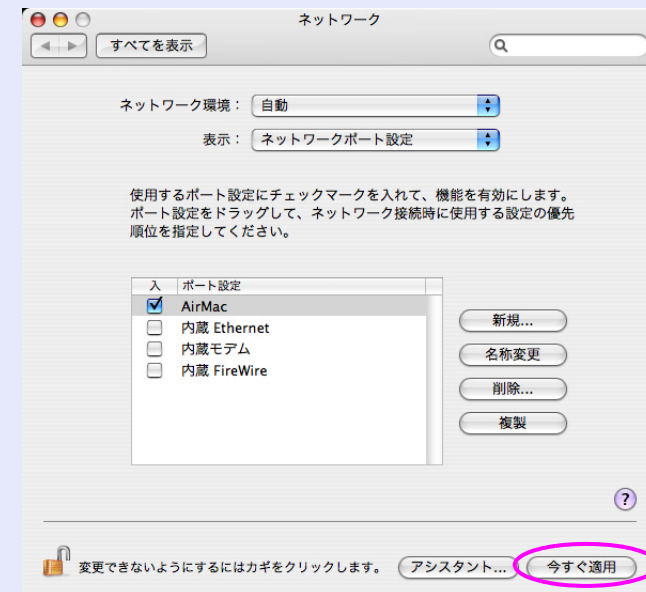
操作

Macintoshの場合

ここでは接続するネットワークポート設定について説明します。
ネットワークポートの詳細設定(ネットワークの設定)についてはコンピュータ、AirMacカードの各『取扱説明書』をご覧ください。

1 アップルメニューから「システム環境設定」-「ネットワーク」を選択します。

ネットワーク設定画面が表示されます。

2 「ポート設定」で使用するポート1つにチェックマークを付け、「今すぐ適用」をクリックします。

「場所」を設定すると、目的の場所を選んで、すべてのネットワーク設定を1度に切り替えることができます。

3 画面を閉じます。

EasyMP Softwareをインストールする

添付のEasyMP Softwareに含まれるEMP NS Connectionをインストールしておいてください。インストール方法については、『かんたん接続ガイド』の「コンピュータ側の準備」をご覧ください。

プロジェクターのネットワーク設定

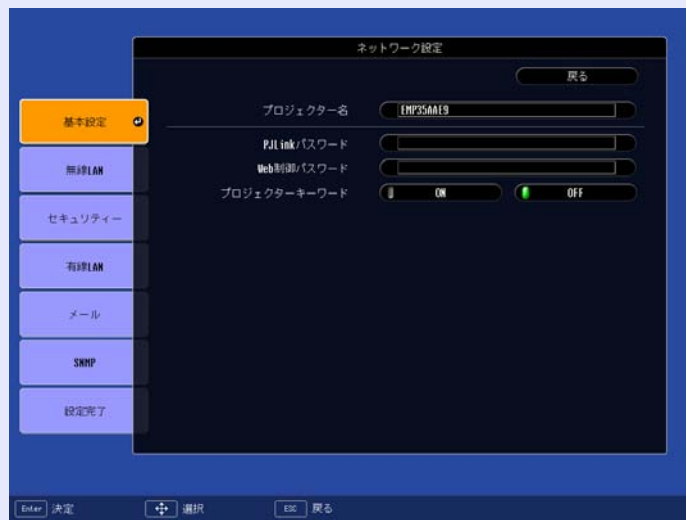
ここでは、マニュアルモードで接続するためのネットワーク設定について説明します。ネットワーク設定は、プロジェクターの環境設定メニューで行います。

- ネットワーク設定は、一度行えば 2 回目以降は操作する必要はありません。
- ここではリモコンを使った設定方法を解説していますが、一度「かんたんモード」で接続してから、コンピュータのWebブラウザを使って設定することもできます。Webブラウザから設定するとコンピュータのキーボードを使って入力できるので設定が容易にできます。☛「Webブラウザを使って設定を変更する(Web制御)」
- プロジェクターの操作パネル、[決定]ボタン、[戻る]ボタン、[⏶][⏷]ボタン、[🔉][🔊]ボタンでも操作できます。
- ネットワーク設定の作業は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従って行ってください。

操作

1. **リモコンの[電源]ボタンを押し、プロジェクターの電源を入れます。**
2. **[メニュー]ボタンを押します。**
   環境設定メニューが表示されます。
3. **リモコンの[◎]ボタンを下に傾けてカーソルを「ネットワーク」へ移動し、[決定]ボタンを押します。**
4. **リモコンの[◎]ボタンを下に傾けてカーソルを「ネットワーク設定へ」へ移動し、[決定]ボタンを押します。**
   ネットワーク設定画面が表示されます。
5. **設定したい項目にカーソルを移動し、リモコンの[決定]ボタンを押して項目を設定します。**
   設定項目については、「ネットワーク設定の機能一覧」☛ p.25をご覧ください。
6. **リモコンの[◎]ボタンを押してカーソルを「設定完了」に移動し、[決定]ボタンを押します。**
   環境設定メニューに戻ります。
7. **リモコンの[メニュー]ボタンを押します。**
   EasyMP画面に戻ります。画面左下に設定したネットワーク情報が表示されます。「プロジェクターキーワード」を「ON」に設定した場合は、キーワードも表示されます。

- プロジェクターキーワードのON/OFFは、環境設定メニューーネットワーク設定の基本設定メニューで設定できます。☛ p.25
- プロジェクターの電源を切って、次回電源を入れるとプロジェクターキーワードが変わります。コンピュータと接続するときには、必ずEasyMP画面に表示されているキーワードを確認してから入力してください。前回のキーワードを入力しても接続できません。

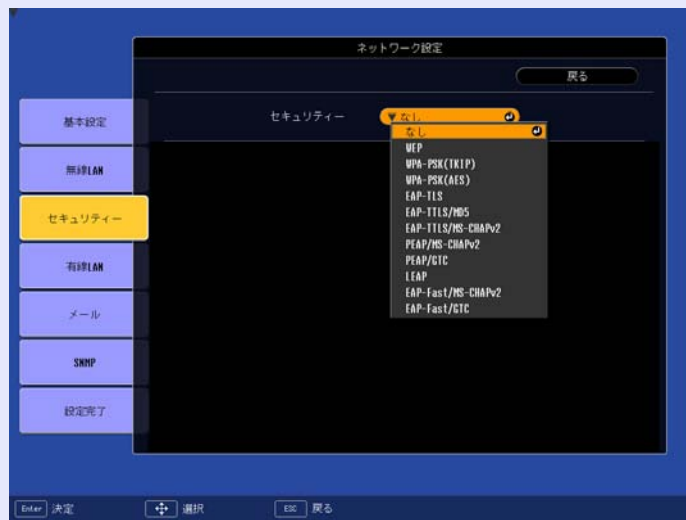
基本設定メニュー

プロジェクター名	プロジェクター固有の名前を入力します。ネットワークに接続したとき、ここで入力した名前でプロジェクターを識別します。初期値は「EMPxxxxxx」(xxxxxxはMACアドレスの下6桁)です。半角英数字で最大16文字まで入力できます。
PJLinkパスワード	PJLink対応アプリケーションソフトを使ってプロジェクターにアクセスするときの認証用パスワードを入力します。 ☛『取扱説明書』「PJLinkについて」 英数字で最大32文字まで入力できます。

Web制御パスワード	Web制御でプロジェクターを設定･制御するときの認証用パスワードを入力します。※ 英数字で最大8文字まで入力できます。Web制御は、コンピュータのWebブラウザを利用して、コンピュータからプロジェクターを設定･制御する機能です。 ☛『EMP Monitor操作ガイド』
プロジェクターキーワード	プロジェクターキーワードを「ON」に設定していると、ネットワーク経由で接続しようとしたとき、キーワードの入力が求められます。この機能を使うと、予定外のコンピュータからの接続でプレゼンテーションが妨害されるのを防ぐことができます。 通常は「ON」に設定してお使いください。

※ 数値やパスワード入力の際はソフトキーボードが表示されます。リモコンの[◎]ボタンを傾けて目的のキーにカーソルを移動し、[決定]ボタンを押して入力します。

無線LANメニュー

接続モード	接続モードを「かんたんモード」「マニュアルモード」から指定します。
アンテナレベル	無線LANの電波強度が表示されます。
無線LAN方式	無線LAN方式を「802.11g/b」「802.11a」から指定します。
ESSID	ESSIDを入力します。プロジェクターが参加する無線LANシステムでESSID が定められている場合は、そのESSIDを入力します。初期値はEPSONです。 半角英数字で最大32文字まで入力できます。
DHCP	DHCPを使用する(オン)／使用しない(オフ)を選択します。
IPアドレス	プロジェクターに割り当てるIPアドレスを入力します。※ アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255 (xは0～255の数字)
サブネットマスク	プロジェクターのサブネットマスクを入力します。※ アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255
ゲートウェイアドレス	プロジェクターのゲートウェイのIPアドレスを入力します。※ アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。 ただし、以下のゲートウェイアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255 (xは0～255の数字)

セキュリティメニュー

セキュリティ	セキュリティの種類を選択します。選択した種類によって、設定項目が変わります。

WEP選択時

WEP暗号	WEP暗号化の暗号方式を設定します。 「128bit」:128(104)bit暗号化を使用する 「64bit」:64(40)bit暗号化を使用する
入力方式	WEP暗号キーの入力方式を設定します。 「ASCII」:テキスト入力 テキストによるWEP暗号設定の方法は、アクセスポイントにより異なります。プロジェクターが参加するネットワークの管理者に確認し、まず「ASCII」に設定してください。 「HEX」:HEX(16進)入力
キーID	WEP暗号IDキーを「1」、「2」、「3」、「4」のいずれかから選択します。
暗号キー1/暗号キー2/暗号キー3/暗号キー4	WEP暗号に使用するキーを入力します。プロジェクターが参加するネットワークの管理者の指示に従って、キーを半角文字で入力します。「WEP暗号」と「入力方式」の設定により、入力できる文字種・数が異なります。 下記でそれぞれ規制している文字数に満たなかった場合と、文字数を超える部分は暗号化されません。 「128bit」－「ASCII」の場合:英数字、13文字まで 「64bit」－「ASCII」の場合:英数字、5文字まで 「128bit」－「HEX」の場合:0～9とA～F、26文字まで 「64bit」－「HEX」の場合:0～9とA～F、10文字まで

WPA-PSK(TKIP)、WPA2-PSK(AES)選択時

PSK(暗号キー)	PreSharedKey(暗号キー)を半角英数字で入力します。8文字以上、最大64文字まで入力できます。PreSharedKeyを入力し、[決定]ボタンで確定すると、設定値はアスタリスク(*)で表示されます。 環境設定メニューでは32文字を超える入力はできません。Web制御から設定すると、32文字を超える入力ができます。☛ p.46

EAP-TLS選択時

発行先/発行者/有効期間	証明書の情報が表示されます。入力はできません。

EAP-TTLS/MD5、EAP-TTLS/MS-CHAPv2、PEAP/MS-CHAPv2、PEAP/GTC、LEAP、EAP-Fast/MS-CHAPv2、EAP-FAST/GTC選択時

ユーザー名	認証に使用するユーザー名を半角英数字で入力します(スペースは使用できません)。最大64文字まで入力できます。 環境設定メニューでは32文字を超える入力はできません。Web制御から設定すると、32文字を超える入力ができます。☛ p. 46
パスワード	認証に使用するパスワードを半角英数字で入力します。最大64文字まで入力できます。パスワードを入力し、[決定]ボタンで確定すると、パスワードはアスタリスク(*)で表示されます。 環境設定メニューでは32文字を超える入力はできません。Web制御から設定すると、32文字を超える入力ができます。☛ p. 46

有線LANメニュー

有線LANはオプションの有線LANユニットをお使いください。

DHCP	DHCPを使用する(オン)／使用しない(オフ)を選択します。
IPアドレス	プロジェクターに割り当てるIPアドレスを入力します。※ アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255（xは0～255の数字）

サブネットマスク	プロジェクターのサブネットマスクを入力します。※ アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255
ゲートウェイアドレス	プロジェクターのゲートウェイのIPアドレスを入力します。※ アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255 (xは0～255の数字)

メール通知メニュー

プロジェクターが異常／警告状態になったときに、ここで通知先を設定すると電子メールで通知されます。

メール通知機能	メール通知を行う(オン)／行わない(オフ)を選択します。
SMTPサーバ	プロジェクターが使うSMTPサーバのIPアドレスを入力します。※ アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。 ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255 (xは0～255の数字)
ポート番号	SMTPサーバのポート番号を入力します。初期値は25です。 1～65535までの有効な数値を入力できます。
宛先メールアドレス1/宛先メールアドレス2/宛先メールアドレス3	通知メールの送信先のメールアドレスの入力と通知する異常／警告の内容を設定します。送信先は最大3件まで登録できます。メールアドレスは最大32文字まで入力できます。
通知イベント指定	メールで通知するプロジェクターの異常／警告を選択します。選択した異常／警告がプロジェクターで起きたときに、「宛先メールアドレス」で指定したメールアドレスに異常／警告が発生したことを通知します。表示されている項目より、複数選択できます。

SNMPメニュー

SNMPの設定を行います。SNMPを使ってプロジェクターを監視するには、コンピュータ側にSNMPマネージャプログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。

SNMPトラップIPアドレス1/SNMPトラップIPアドレス2	SNMPのトラップ通知先のIPアドレスを2つまで登録できます。 「トラップIPアドレス1」に登録したIPアドレスに通知できなかったときに、「トラップIPアドレス2」に登録したIPアドレスに通知されます。 アドレスの各フィールドには0〜255の数字を入力できます。 ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0〜255.255.255.255 （xは0〜255の数字）

完了設定メニュー

環境設定メニューに戻ります。

無線LANのマニュアルモードで接続する

接続設定が完了したら、コンピュータでEMP NS Connection を起動し、プロジェクターと接続します。一度プロジェクターのネットワーク設定を行っていれば、以降はこの接続操作から始められます。

プロジェクターを接続待機状態にする

操作

1. リモコンの[電源]ボタンを押し、プロジェクターの電源を入れます。
2. リモコンの[EasyMP]ボタンを押してEasyMP画面にします。

   画面のNetwork Presentationのネットワーク情報が以下のような状態になっていることを確認します。

プロジェクターのネットワーク情報が表示されます。

コンピュータでEMP NS Connectionを起動する

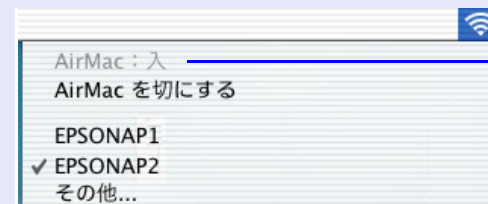
以降の説明では、断りのない限りWindowsの画面を載せています。Macintoshでも同等の画面が表示されます。

操作

Windowsの場合

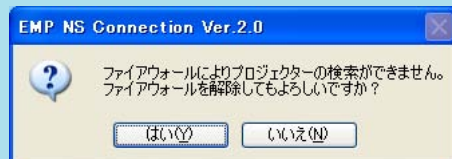
「スタート」-「プログラム」-(または「すべてのプログラム」)-「EPSON Projector」-「EMP NS Connection」の順に選択します。

Macintoshの場合

1. コンピュータ画面右上の通信状態を示すアイコンをクリックし、次のようになっていることを確認します。

AirMac:入
無線LANに接続できます。

2. EMP NS Connectionをインストールしたハードディスクボリュームから「アプリケーション」フォルダをダブルクリックし、EMP NS Connection のアイコンをダブルクリックします。

EMP NS Connectionが起動します。

- 起動中に以下の画面が表示されることがありますので、「はい」ボタンをクリックしてください。

「はい」ボタンをクリックすると、EMP NS Connectionがファイアウォールの例外として許可されて利用可能になります。

- PowerPoint起動中にEMP NS Connectionを起動すると、起動時の画面に「PowerPointを再起動しないと、スライドショーが実行できない場合があります。」と表示されます。このようなときは、PowerPointを終了し、EMP NS Connection起動後にもう一度起動してください。

EMP NS Connectionの画面

EMP NS Connectionを起動すると以下の画面が表示されます。

自動検索	コンピュータが接続しているネットワークシステムの中で接続可能なプロジェクターを検索します。
指定検索	プロジェクターのIPアドレス、またはプロジェクター名を指定して検索します。
プロファイル	保存してある情報(プロファイル)を使って検索します。
リストの保存	表示中のプロジェクター情報をプロファイルとして保存します。プロファイルについて ☛ p. 38
リストのクリア	表示されているリストをクリアします。
割り込み接続を禁止する	接続中に他のコンピュータからの割り込み接続を禁止します。
マルチディスプレイを使用する	マルチスクリーンディスプレイ機能を使用するとき、チェックマークを付けます。チェックマークを付けると画面の下側に「ディスプレイ配置」と「ディスプレイのプロパティ」が表示されます。マルチスクリーンディスプレイについて☛ p. 16

ディスプレイ配置	コンピュータの「画面のプロパティ」で設定されているディスプレイ配置が表示されます。ここでは、配置を変更することはできません。配置を変更するには「ディスプレイのプロパティ」ボタンをクリックします。
ディスプレイのプロパティ	「画面のプロパティ」画面が表示されて、ディスプレイの配置を変更できます。

プロジェクターと接続する

操作

「自動検索」をクリックします。

プロジェクターの検索結果が表示されます。
接続したいプロジェクターが表示されないとき
☛ p. 36

2 **接続するプロジェクターにチェックマークを付けます。4台まで同時に接続できます。**

3 **「接続する」ボタンをクリックします。**

- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、自動的に先に接続していたコンピュータを切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。

4 「プロジェクターキーワード」を「ON」に設定した場合は、プロジェクターのEasyMP 画面に表示されているプロジェクターキーワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。

コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面が投写されます。
コンピュータの画面には、EMP NS Connection のツールバーが表示されます。このツールバーを使って、プロジェクターの操作や設定をしたり、ネットワーク接続を切断したりできます。
ツールバーの使い方については、☛「ツールバーの使い方」p.10をご覧ください。

- プレゼンテーションを行う際にツールバーが不都合になる場合は、ツールバーを最小化することができます。この場合は、リモコンでプロジェクターの操作や設定を行います。☛『取扱説明書』「各部の名称と働き」「リモコン」
  PowerPoint ファイルを投写している場合は、リモコンのページ[⊡] [⊡]ボタンを押して前のスライドに戻す／ 次のスライドに送ることができます。
- プレゼンターの交代など、引き続き別のコンピュータから接続する場合は、接続したいコンピュータでEMP NS Connection を起動して接続してください。接続中のコンピュータとの接続が自動的に切断され、後から接続しようとしたコンピュータと接続します。
- Network Presentationでコンピュータの映像を投写するときの対応解像度や表示色などの制限事項については☛「接続時の制限事項」p.8をご覧ください。

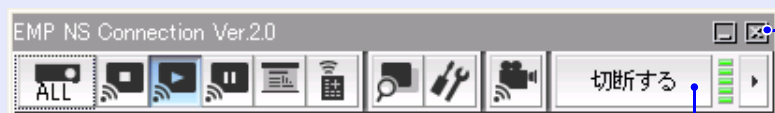
ネットワーク接続を切断する

コンピュータとプロジェクターのネットワークを介した接続を切断します。複数台のプロジェクターと接続しているコンピュータで切断の操作をすると、すべてのプロジェクターとの接続が切断されます。

コンピュータから切断する

操作

ツールバーで、「切断する」または、「 」をクリックします。

Windows の場合

切断する／終了…ネットワーク接続を切断してプロジェクター選択画面に戻ります。

Macintosh の場合

切断する／終了…ネットワーク接続を切断してプロジェクター選択画面に戻ります。

プロジェクターから切断する

操作

1. **リモコンの[戻る]ボタンを押します。**
   終了メニューが表示されます。
2. **「終了する」ボタンを選択して、リモコンの[決定]ボタンを押します。**
   切断するコンピュータの画面に「接続中のプロジェクターはプロジェクター側から切断されました。」と表示されます。

以下のような理由で、目的のプロジェクターがEMP NS Connectionのプロジェクター選択画面に表示されないことがあります。

- 無線LANの電波が届かない、弱い。
- ネットワークのサブネットが異なっている。

このような場合は、「指定検索」や「プロファイル」を使って検索します。

マニュアルモードのときに「指定検索」を使うと、プロジェクターのIPアドレスやプロジェクター名を指定して検索できます。
また、よく使うプロジェクターの情報(IPアドレスなど)をプロファイルとして保存しておき、その情報を指定して検索することもできます。☛ p.39

- かんたんモードで「指定検索」を使うと ESSID を指定できます。プロジェクターが多いときに検索対象をESSIDで絞り込むことができます。
- 目的のプロジェクターが表示されない理由として「「AirMac:入」になっていない」「適切なアクセスポイントを選択していない」という可能性もあります。

以降の説明では、断りのない限りWindowsの画面を載せています。
Macintoshでも同等の画面が表示されます。

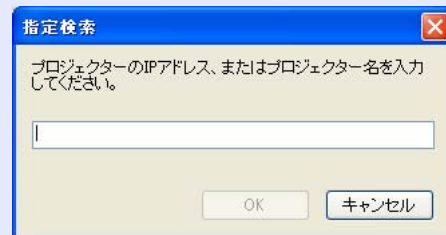
IPアドレスやプロジェクター名を指定して検索(マニュアルモードのとき)

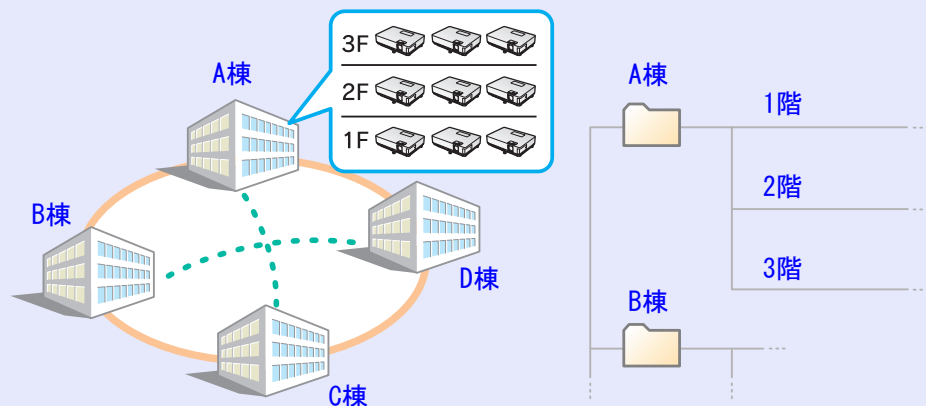
操作

EMP NS Connectionのプロジェクター選択画面で、「指定検索」をクリックします。

接続したいプロジェクターの IP アドレス、またはプロジェクター名を入力して「OK」ボタンをクリックします。

EMP NS Connectionのプロジェクター選択画面にプロジェクターの情報が追加されます。

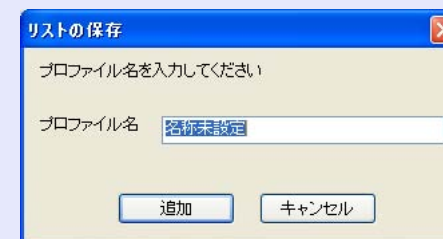
よく使うプロジェクターをプロファイルに登録しておく

プロジェクター情報(プロジェクター名、IPアドレス、ESSID)をプロファイルとして保存できます。プロジェクターを設置している場所ごとにプロファイルのグループを作って、フォルダで管理すると目的のプロジェクターを素早く見つけることができます。
ここでは、プロファイルの作成、編集方法を説明します。

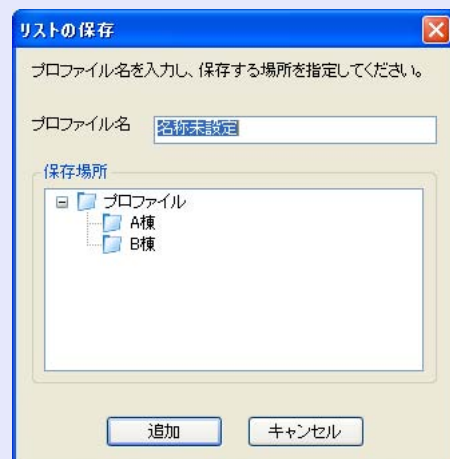
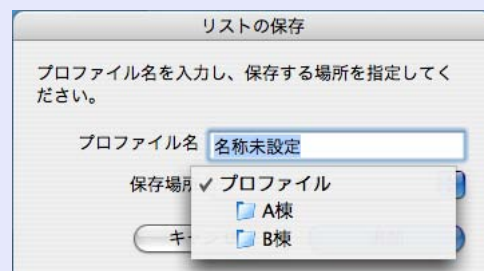
プロファイルを作成する

プロファイルは、「リストの保存」ボタンで作成できます。作成したプロファイルは、フォルダを作って管理できます。階層の編集は「プロファイルを管理する」☛ p. 40をご覧ください。

操作

1. EMP NS Connectionプロジェクター選択画面にプロジェクターが表示された状態で、「リストの保存」をクリックします。

プロファイル保存画面が表示されます。

2. プロファイル名を入力し、「追加」ボタンをクリックします。

すでにプロファイルを作成していた場合は、以下の画面が表示されますので、プロファイル名を入力し、保存先を選択してから「追加」ボタンをクリックします。

Windowsの場合

Macintoshの場合

プロファイルにプロジェクター情報が登録されます。

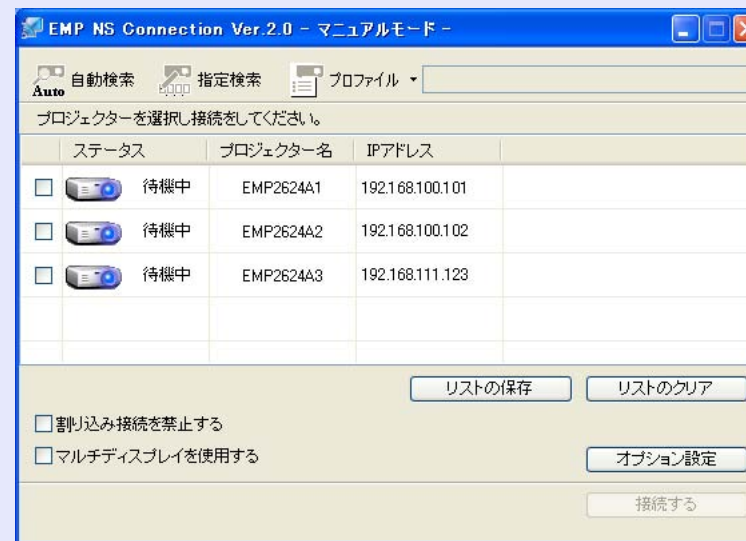
「プロファイル一覧」の下にフォルダを作って保存できます。フォルダの作成方法は「プロファイルを管理する」☛ p.40をご覧ください。

プロファイルを指定して検索

作成したプロファイルを指定して検索します。

操作

EMP NS Connectionのプロジェクター選択画面で、「プロファイル」をクリックします。

プロファイルが登録されていないときは、「プロファイル」は選択できません。

2 表示されたメニューから、接続したいプロジェクターを選択します。

EMP NS Connectionのプロジェクター選択画面にプロジェクターの情報が追加されます。

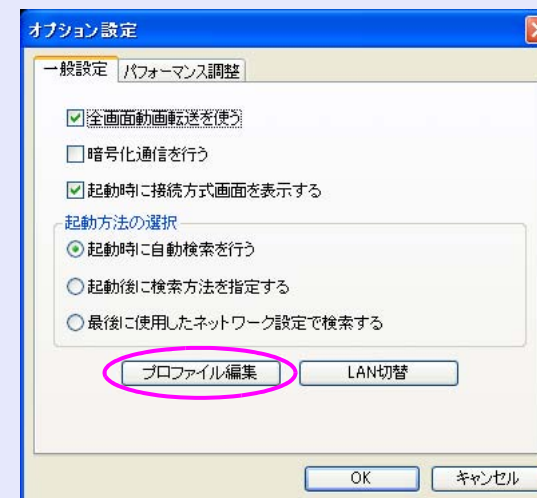
プロファイルを管理する

プロファイルの名称や階層構成を変更します。

操作

1 メイン画面で「オプション設定」ボタンをクリックします。

環境設定画面が表示されます。

2 「プロファイル編集」ボタンをクリックします。

プロファイルの管理画面が表示されます。

3 プロファイルの登録内容を編集します。

:フォルダを示します。
:プロファイルを示します。

プロファイル	登録されているプロファイルが表示されます。フォルダを作成して管理できます。プロファイル、またはフォルダの並び順は、ドラッグ＆ドロップで移動できます。
複製	プロファイルを複製します。複製したプロファイルは、複製元ファイルの名称と同じ名称で複製元のファイルと同じフォルダに保存されます。
削除	プロファイル、またはフォルダを削除します。
名称変更	名称変更ダイアログが表示され、フォルダ名、またはプロファイル名を変更できます。名称変更ダイアログで入力できる文字数は32文字までです。
フォルダ作成	新たにフォルダを作成できます。

選択プロファイルの情報

選択したプロファイルに含まれるプロジェクトの情報が表示されます。
操作対象のプロジェクターアイコンを選択し、移動／コピー／登録削除を行えます。

選択プロファイル情報	プロファイルに登録されているプロジェクター情報が表示されます。
削除	プロジェクター情報を削除します。すべてのプロジェクター情報を削除するとプロファイルも削除されます。

「OK」をクリックします。

プロファイルの管理画面が閉じます。

無線LANのセキュリティ対策

無線LANでは、電波を利用してデータのやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば簡単に通信ができるという利点があります。
その反面、電波は壁などの障害物を越えてどこへでも届くため、セキュリティの設定を行っていないと、特別なツールを使わなくても通信内容を傍受したり、ネットワークに侵入したりできます。
この問題を防ぐために、次のセキュリティ機能が準備されています。

- データの暗号化
  データを暗号化して送信します。データを傍受されても、解読されません。
- 接続の制限(認証)
  ユーザー名やパスワードをあらかじめ登録し、登録されている無線LAN端末だけをネットワークに接続できるようにして、第三者がネットワークに接続することを防ぎます。
- ファイアウォール
  使用しないポートを閉鎖することで、外部からの不正アクセスを防止します。
  本機で使用できるセキュリティ機能は無線LAN の接続モードによって異なります。
  ファイアウォールは、OSが用意している機能を使用してください。

本機で使用できるセキュリティ機能は無線LANの接続モードによって異なります。

かんたんモードのとき	暗号化通信☛ p. 19
マニュアルモードのとき※	暗号化通信☛ p. 19 WEP、WPA-PSK(TKIP)、WPA-PSK(AES)、EAP-TLS、EAP-TTLS/MD5、EAP-TTLS/MS-CHAPv2、PEAP/MS-CHAPv2、PEAP/GTC、LEAP、EAP-Fast/MS-CHAPv2、EAP-FAST/GTC☛ p. 27

※ 接続先のアクセスポイントが同じ機能に対応している場合にのみ有効です。

暗号化通信を使う

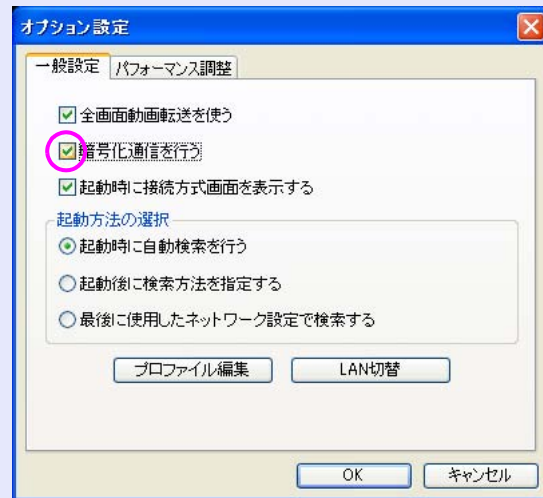
暗号化通信を行うかを指定できます。

操作

メイン画面で「オプション設定」ボタンをクリックします。

オプション設定画面が表示されます。

「一般設定」タブをクリックします。

3 「暗号化通信を行う」をクリックしてチェックマークを付けます。

4 「OK」ボタンをクリックします。

無線LANマニュアルモードで暗号化方式・認証方式を設定する

無線LANマニュアルモードで接続して通信するときに使用する暗号化方式・認証方式を次の中から1つ選択できます。

- WEP
  暗号キー（WEPキー）を使ってデータの暗号化を行います。
  アクセスポイントとプロジェクター間で、暗号キーが一致しないと通信できない仕組みです。
- WPA
  WEPの弱点を補強しセキュリティ強度を向上させた暗号化規格です。WPAには数種類の暗号化方式がありますが、本機では「TKIP▸▸」を使用します。TKIPはPSKを使い、一定間隔で自動的に暗号キーを更新するので、暗号キーが固定値であるWEPに比べて暗号が解読されにくくなっています。
  WPAは、ユーザー認証機能も備えています。WPAの認証方式には、認証サーバを使う方法と、認証サーバは使わずコンピュータとアクセスポイントの間で認証を行う方法があります。本機は、認証サーバを使わない認証方法に対応しています。
- EAP
  EAPは、クライアントー認証サーバ間のやりとりに用いられるプロトコルです。ユーザー認証に電子証明書を用いるEAP-TLS、ユーザー IDとパスワードを用いるLEAP、EAP-TTLSなどがあります。

方式	認証	備考
EAP-TLS	電子証明書、CA証明書	
EAP-TTLS	ユーザーID、パスワード	ファンクソフトウェア社
PEAP/MS-CHAPv2	ユーザーID、パスワード	マイクロソフト社
PEAP/EAP-GTC	ユーザーID、パスワード	シスコシステムズ社
LEAP	ユーザーID、パスワード	シスコシステムズ社

- 各設定の作業は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従って行ってください。
- EAPを使用する場合、認証サーバに合わせた設定をプロジェクターで行う必要があります。RADIUSサーバの設定については、ネットワークシステムの管理者にご確認ください。
- Webブラウザからプロジェクターの設定・制御用ブラウザページにアクセスして、そのページ上でネットワーク設定をすることができます(Web制御)。Web制御では、キーボードを使って入力できるため、リモコンでの入力が面倒なときに便利です。☛ p.46

セキュリティの設定は、プロジェクターの環境設定メニューのネットワーク設定で行います。☛ p. 27

電子証明書、CA証明書を登録する

電子証明書、CA証明書をプロジェクターに登録することができます。プロジェクターに登録できる電子証明書およびCA証明書は１つだけです。この証明書はEAP-TLSで使用します。

コンピュータを使ってプロジェクターの設定・監視・制御をする

ここでは、ネットワークを介して接続したコンピュータを使って、プロジェクターの設定を変更したり、管理したりする方法を説明しています。

Webブラウザを使って設定を変更する(Web制御)

プロジェクターとネットワーク接続したコンピュータのWebブラウザを利用して、コンピュータからプロジェクターの設定や制御が行えます。この機能を使えば、プロジェクターから離れた場所から、設定や制御の操作ができます。また、キーボードを使って設定内容を入力できるので、文字の入力を伴う設定も容易にできます。
Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer6.0以降を使用してください。Macintoshをお使いの場合は、Safariも使用できます。ただし、Macintosh 10.2.8でSafariをお使いの場合はWeb制御上のラジオボタンが一部正しく表示されないことがあります。

プロジェクターの環境設定メニューの「拡張設定」→「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定しておくと、プロジェクターがスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、Webブラウザを使った設定や制御ができます。

Web制御を表示する

以下の手順で、Web制御を表示します。

ご使用のWebブラウザで、プロキシサーバを使用して接続するように設定されていると、Web制御を表示できません。表示したい場合は、プロキシサーバを使用しないで接続するように設定してください。

■ プロジェクターのIPアドレスを入力する

無線LANのマニュアルモードを利用する場合、またはオプションの有線LANユニットを利用して接続している場合は、次のようにプロジェクターのIPアドレスを指定してWeb制御を開くことができます。

操作

1. コンピュータでWebブラウザを起動します。

2. Webブラウザのアドレス入力部に、プロジェクターのIP アドレスを入力し、コンピュータのキーボードの[Enter]キーを押します。

Web制御が表示されます。

プロジェクターの環境設定メニューで設定する項目を設定できます。設定した内容は、環境設定メニューに反映されます。

Webブラウザで設定できない環境設定メニューの項目

次の項目を除いて、プロジェクターの環境設定メニューの全項目を設定できます。

- 「設定」→「ポインタ形状」、「EasyMP音声出力」
- 「拡張設定」→「ユーザーロゴ」によるユーザーロゴの登録
- 「拡張設定」→「動作設定」→「高地モード」
- 「拡張設定」→「Link21L」、「言語」
- 「初期化」→「全初期化」、「ランプ点灯時間初期化」

各メニューの項目の内容はプロジェクター本体の環境設定メニューと同じです。
☛『取扱説明書』「環境設定メニュー」「機能一覧」
☛「ネットワーク設定の機能一覧」p.25
「MACアドレス」は表示されません。

環境設定メニューのネットワーク設定でメール通知機能の設定をしておくと、プロジェクターが異常／警告状態になったとき、設定したメールアドレスに異常状態が電子メールで通知されます。これにより、離れた場所にいてもプロジェクターの異常を知ることができます。

- 送信先(宛先)は最大 3 つまで記憶でき、一括して送ることができます。
- プロジェクターに致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になった場合などは、メール送信できないことがあります。
- プロジェクターの環境設定メニューで「拡張設定」→「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定しておくと、プロジェクターがスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、監視ができます。

メール通知機能の設定

メール通知機能の設定は、環境設定メニューのネットワーク設定画面で「メール設定」を選択して行います。☛ p. 29

また、次の点をご確認ください。

- プロジェクターとコンピュータが無線 LAN のマニュアルモードまたはオプションの有線LANユニットを利用して接続できるように、ネットワーク設定をしておきます。

☛「アクセスポイントへの無線LAN接続」

異常通知のメールが送られてきたら

メール通知先に設定したIPアドレス▸に、件名が「EPSON Projector」と記載されたメールが送信されてきたら、それがプロジェクターの異常を通知するメールです。

メールの本文には次のことが記載されています。
1行目:異常が生じたプロジェクターのプロジェクター名
2行目:異常が生じたプロジェクターに設定されているIPアドレス
3行目以降:異常の内容
異常の内容は、1行に1つずつ記載されています。メッセージの示す内容は次表のとおりです。

メッセージ※	原因	対処方法
Internal error	内部異常	☛『取扱説明書』「インジケータの見方」
Fan related error	ファン異常	
Sensor error	センサ異常	
Lamp timer failure	ランプ点灯失敗	
Lamp out	ランプ異常	
Lamp cover is open.	ランプカバー開状態	
Internal temperature error	内部高温異常(オーバーヒート)	
High-speed cooling in progress	高温警告	
Lamp replacement notification	ランプ交換勧告	
No-signal	ノーシグナル	プロジェクターに映像信号が入力されていません。接続状態や、接続している機器の電源が入っているかを確認してください。

※ メッセージの最初に(+)や(－)が付きます。
(+):本機に異常が発生した場合
(－):本機の異常が対処された場合

SNMPを使って管理する

EasyMPのネットワーク設定でSNMPの設定をしておくと、プロジェクターが異常／警告状態になったとき、設定したコンピュータに異常状態が通知されます。これにより、離れた場所で集中管理している状態でもプロジェクターの異常を知ることができます。

- SNMP による管理は、必ず、ネットワーク管理者などネットワークに詳しい人が行ってください。
- SNMP機能を使ってプロジェクターを監視するには、コンピュータ側にSNMPマネージャプログラムがインストールされている必要があります。
- SNMPを使った管理機能は、無線LANのかんたんモードでは使用できません。
- 通知先のIPアドレスは2つまで登録でき、1番目に指定したIPアドレスに通知できなかった場合、2番目のIPアドレスに通知されます。

SNMPの設定は、環境設定メニューのネットワーク設定画面で「SNMP」を選択して行います。☛ p.30

PC Freeを使ったプレゼンテーション

ここでは、EMP SlideMaker2で作成したシナリオと、画像・動画ファイルをプロジェクターで投写するPC Free機能の操作方法を説明します。

PC Freeで投写できるファイルと利用例

PC Freeは、デジタルカメラやUSBストレージに格納されたファイルをプロジェクターで投写できます。
PC Freeで投写できるファイルは次のとおりです。

PC Freeで投写できるファイル

種類	ファイルタイプ（拡張子）	備考
シナリオ	.sit	SlideMaker2で作成されたシナリオファイルです。PowerPointファイルをそのまま変換したり、画像や動画を組み合わせて作成できます。シナリオの作成方法は☛「シナリオの準備」p.58をご覧ください。 シナリオ作成時にBGM設定した音声(.wav)も再生できます。 EMP-7950/7850/765/755/745/737、ELP-735/715/505に添付のEMP SlideMakerで作成したシナリオも投写できます。
画像	.bmp	解像度が1024×768を超えるものは投写できません。
	.gif	解像度が1024×768を超えるものは投写できません。
	.jpg	バージョンを問いません。ただし、CMYKカラーモード形式、プログレッシブ形式、解像度が8192×6144を超えるものは投写できません。
	.png	解像度が1024×768を超えるものは投写できません。
動画	.mpg	MPEG1 MPEG2 再生できる音声形式は、MPEG1レイヤー2です。リニアPCMとAC-3は再生できません。無音のMPEGコンテンツも再生できます。
DPOF▸▸	.mrk	DPOFのバージョンが1.10で、ファイル名がAUTPLAYx.mrk (xは0～9の数字)のもののみ投写できます。

- 拡張子が「.jpeg」のJPEGファイルと「.mpeg」のMPEGファイルは投写できません。
- JPEG ファイルの特性上、圧縮率が高いと画像がきれいに投写されないことがあります。
- 動画やBGMつきシナリオを再生する場合、アクセス速度が遅いUSBストレージ(高ビットレート再生のとき)を使用すると、正しく再生されなかったり、音飛びしたり音が出なくなったりすることがあります。
  USBハードディスクを使用するときは、ACアダプタで電源供給することを推奨します。
- ご使用になるメディアをフォーマットする場合は、以下を推奨します。
  USBメモリ　　FAT16/32
  USBハードディスク　　FAT16/32

PC Freeの利用例

PC Freeでは、以下のような使い方ができます。

■例1：PowerPointファイルをそのままシナリオに変換して、投写する
☛「PowerPointファイルをシナリオにするには」p.66
☛「シナリオの投写」p.58

■例2：複数の画像を用意して連続再生する（スライドショー） ☛ p.61

■例3：プレゼンテーションを自動再生（オートラン）に設定する
☛「シナリオの転送」p.79

■例4：BGMを付けてプレゼンテーションを投写する ☛ p.69

■例5：画像ファイルや動画ファイルをひとつひとつ選んで投写する
☛ p.60

PC Freeの基本操作

PC Freeでは、デジタルカメラの画像ファイルやUSBストレージ内のシナリオ･画像･動画ファイルを再生し、投写できます。
ここでは、PC Freeの基本的な使用方法について説明します。

PC Freeの起動と終了

PC Freeの起動方法

操作

1 プロジェクターの[USB TypeA]端子に、以下のどちらかをセットします。

- デジタルカメラまたはUSBストレージ
- USBマルチカードリーダー(USBストレージをセットした状態)☛『セットアップガイド』

2 リモコンの[EasyMP]ボタンを押して投写画面に「EasyMP」と表示されるのを確認してください。

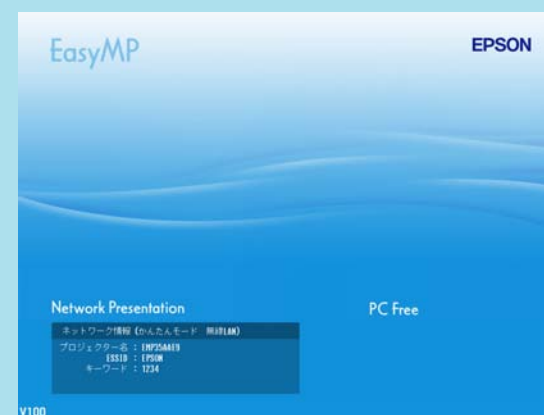
PC Freeが起動してデジタルカメラまたはUSBストレージの内容が表示されます。
複数のUSBストレージをセットしている場合は、EasyMP画面にUSBストレージのアイコンが複数表示されます。

リモコンの[◎]ボタンを傾けて、投写するUSBストレージにカーソルを合わせ、[決定]ボタンを押します。

JPEGファイルやMPEGファイルはサムネイル表示(ファイルの内容が小さい画像で表示)されます。それ以外のファイルとフォルダはアイコン表示されます。

サムネイル表示できないファイルは以下のアイコンで表示します。

アイコン	ファイル種類	アイコン	ファイル種類
SIT	シナリオファイル	JPEG	JPEGファイル
DPOF	デジタルカメラ用フォーマット	PNG	PNGファイル
MOV	Quick Time (Motion-JPEG)	CER PEM	電子証明書ファイル
MPEG	MPEGファイル	PFX CRT	
BMP	BMPファイル	P12 P7B	
GIF	GIFファイル		

- オートランの設定をしたシナリオが USB ストレージにある場合は、最優先でそのシナリオが自動的に再生されます。再生を中止したい場合は、リモコンの[戻る]ボタンを押します。
- プロジェクターとデジタルカメラ、プロジェクターとUSBストレージが接続されていないと、次の画面が表示されます。この場合は、デジタルカメラまたはUSBストレージを接続すると、手順3の画面が表示されます。

- JPEG ファイルによっては、サムネイル表示に切り替えてもサムネイルが表示できないことがあります。その場合はファイルアイコンが表示されます。

■ PC Freeの終了方法

操作

1 リモコンの[◎]ボタンを上に傾けて「終了」ボタンにカーソルを合わせます。

2 リモコンの[決定]ボタンを押します。

PC Freeが終了し、次の画面が表示されます。

3 デジタルカメラまたはUSBストレージの電源を切るなどしてから、プロジェクターの[USB TypeA]端子から取り外します。

PC Freeを終了しEasyMP待機画面が表示された状態で、USBストレージを差し込んだままのときに、再度PC Freeを起動するには、USBストレージを一度取り外し、再度差し込んでください。

ガイドモードとクイックモード

ガイドモードでは、フォルダやファイルを選択したときに、次の操作を指定するためのサブメニューが表示されます。
クイックモードでは、サブメニューが表示されずにすぐにファイル投写が始まります。フォルダ選択時は、フォルダが開きます。

初期設定では「ガイドモード」に設定されています。ガイドモードとクイックモードでは、以下のように動作が違います。

フォルダを選択して[決定]ボタンを押したとき

ガイドモードの場合	クイックモードの場合
以下のサブメニューが表示されます。 フォルダを開く スライドショー再生 ☛ p. 61 オプション ☛ p. 62	フォルダが開きます。

ファイルを選択して[決定]ボタンを押したとき

ガイドモードの場合	クイックモードの場合
ファイルの形式によって、以下のサブメニューのどれかが表示されます。 画像再生 ☛ p. 60 動画再生 ☛ p. 60 シナリオ再生 ☛ p. 58	ファイルの再生が始まります。

操作モードの設定方法については、「画像・動画ファイルの表示条件と操作モードを設定する」をご覧ください。☛ p. 62

PC Freeの基本操作(ガイドモード)

ガイドモードで、シナリオ、画像、動画の再生などをする手順を説明します。

操作

リモコンの[◎]ボタンを傾けて、操作の対象となるファイルまたはフォルダにカーソルを合わせます。

現在表示中の画面にすべてのファイルやフォルダが表示しきれていない場合は、リモコンの[⊡]ボタンを押すか、「次のページ」ボタンにカーソルを合わせてリモコンの[決定]ボタンを押します。
前の画面に戻る場合は、リモコンの[⊡]ボタンを押すか、「前のページ」ボタンにカーソルを合わせてリモコンの[決定]ボタンを押します。

2 リモコンの[決定]ボタンを押します。

サブメニューが表示されます。

表示されたサブメニューから次の操作を選択して、リモコンの[決定]ボタンを押します。

シナリオを選択した場合

シナリオ再生	シナリオを再生します。☛ p. 58

画像ファイルを選択した場合

画像再生	画像を再生します。☛ p. 60

動画ファイルを選択した場合

動画再生	動画を再生します。☛ p. 60

フォルダを選択した場合

フォルダを開く	フォルダを開いてフォルダ内のファイルを表示します。フォルダを開いた画面で、「上へ戻る」を選択して[決定]ボタンを押すとフォルダを開く前の画面に戻ります。
スライドショー再生	フォルダ内の画像ファイルや動画ファイルを順次再生します。☛ p. 61
オプション	オプション設定画面を表示します。PC Free起動時にガイドモード、クイックモードのどちらで起動するかを設定したり、画像ファイルや動画ファイルを順次再生するスライドショーの動作を設定したりします。☛ p. 62

PC Freeの基本操作(クイックモード)

クイックモードではファイルを選択してリモコンの[決定]ボタンを押すと主な機能を直接実行できます。

ファイルを選択したとき

ファイルの再生が始まります。

フォルダを選択したとき

フォルダが開きます。

画像を回転する

PC Freeで再生したJPEG形式の画像を90°単位で回転できます。スライドショー実行時に再生されるJPEG形式の画像も回転できます。
次の手順でJPEG形式の画像を回転します。

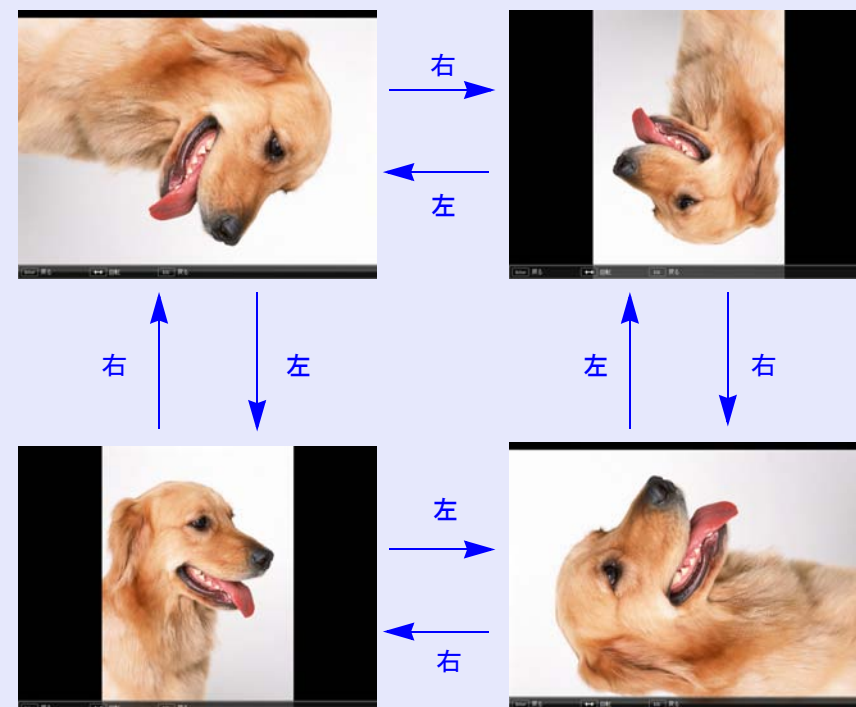
操作

1 JPEG 形式の画像またはシナリオを再生するか、スライドショーを実行します。

JPEG形式の画像の再生 ☛「画像・動画を投写する」p. 60
シナリオの再生 ☛「シナリオの準備」p. 58
スライドショーの実行 ☛「フォルダ内のすべての画像・動画ファイルを順番に投写する(スライドショー)」p. 61

2 JPEG 形式の画像が再生されたら、リモコンの[◎]ボタンを左右に傾けます。

[◎]ボタンの傾ける方向と画像の回転は下図のとおりです。

シナリオの投写

ここでは､USBストレージに格納したシナリオの再生方法とシナリオ再生中の操作方法について説明します。

シナリオの準備

再生するシナリオは､事前にEMP SlideMaker2で作成し､｢シナリオ転送｣機能でUSBストレージに転送しておきます。☛ p. 79

シナリオ転送時にオートランや繰り返し投写の設定ができます。☛ p.79

シナリオの再生

操作

1 **PC Freeを起動します。** ☛ p.52

USBストレージの内容が表示されます。

2 **リモコンの[◎]ボタンを傾けて､再生するシナリオファイルにカーソルを合わせます。**

3 **リモコンの[決定]ボタンを押します。**

クイックモードのときは､ファイルの再生が始まります。
ガイドモードのときは､サブメニューが表示されますので､[◎]ボタンを上下に傾けて｢シナリオ再生｣を選択して[決定]ボタンを押します。シナリオの再生が始まります。

4 **｢シナリオ動作｣が｢自動｣に設定されている場合は最後まで再生すると､ファイル一覧表示に戻ります。繰り返し設定がされているときは､最後まで再生すると最初から再生を繰り返します。**

｢シナリオ動作｣が｢手動｣に設定されている場合や､中止､停止を行うには､次の｢プレゼンテーション中の操作｣をご覧ください。

- シナリオ再生中､JPEG 形式の画像が投写されているときは､画像を回転できます。☛ p.57
- シナリオに含まれる動画を再生中に早送り､早戻し､一時停止が行えます。☛ p.61
- シナリオのスライド切り替え時間の設定は､EMP SlideMaker2の｢シナリオ動作｣で設定できます。☛ p.62

プレゼンテーション中の操作

シナリオ再生中は、リモコンで次の操作ができます。

画面切り替え	[決定]またはページ[⬇]ボタンを押すと、次の画面に進みます。 ページ[⬆]ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
再生の中止	[戻る]ボタンを押すと、「シナリオ再生を終了しますか?」とメッセージが表示されます。「終了する」ボタンを選択して[決定]ボタンを押すと終了します。「戻る」ボタンを選択して[決定]ボタンを押すと再生を続けます。

プロジェクター本体の次の機能はPC Freeでシナリオや画像ファイルを投写しているときも同様に使えます。

- 静止
- A/Vミュート
- Eズーム

各機能の詳細 ☛『取扱説明書』「静止機能」、「A/Vミュート機能」、「Eズーム機能」

画像・動画ファイルの投写

デジタルカメラの画像ファイルやUSBストレージ内の画像・動画ファイルをPC Freeで投写するには、次の2通りの方法があります。

- 画像・動画ファイルの投写
  1つのファイルの内容を再生して投写する機能です。
- フォルダ内の画像・動画ファイルの順次投写(スライドショー)
  フォルダ内のファイルの内容を、順番に1つずつ再生して投写する機能です。

注意
動画投写時は頻繁にUSBストレージにアクセスします。そのときにUSBストレージの接続を外さないでください。PC Freeに異常が発生する場合があります。

画像・動画を投写する

操作

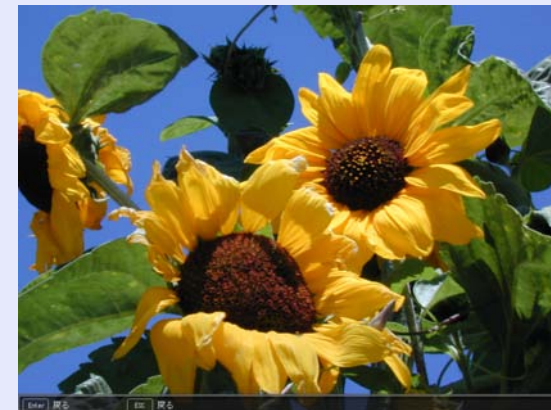
1 **PC Freeを起動します。** ☛ p.52

接続しているデジタルカメラやUSBストレージの内容が表示されます。

2 **リモコンの[◎]ボタンを傾けて、投写する画像ファイルまたは動画ファイルにカーソルを合わせます。**

3 **リモコンの[決定]ボタンを押します。**

クイックモードのときは、画像や動画の再生が始まります。ガイドモードのときは、サブメニューが表示されますので、「画像再生」または「動画再生」を選択して[決定]ボタンを押します。画像または動画の再生が始まります。

4 **画像または動画の投写中にリモコンの[決定]ボタンまたは[戻る]ボタンを押すと、ファイル一覧表示に戻ります。**

- JPEG 形式の画像を投写しているときは、画像を回転できます。☛ p.57
- 動画再生中は、リモコンで次の操作が行えます。
  ただし、早送り/早戻しはMPEG1形式の動画では操作できません。
  早送り：[◎]ボタンを右に傾ける
  早戻し：[◎]ボタンを左に傾ける
  静止(一時停止)：[◎]ボタンを下に傾ける
  早戻し／早送りスピードは3段階あり、ボタンを押すたびに変わります。
  通常の再生に戻るには[決定]ボタンを押します。
  早送り・早戻し・静止中は音声は出ません。

フォルダ内のすべての画像・動画ファイルを順番に投写する(スライドショー)

フォルダ内の画像・動画ファイルを順番に1つずつ投写できます。この機能を「スライドショー」と呼びます。以下の手順でスライドショーを実行します。

繰り返して投写したり画面切替時の表示に効果をつけるなどの表示条件を設定できます。スライドショーで動画・画像ファイルを自動的に切り替えて表示するには、PC Freeのオプションで表示時間設定を「なし」以外に設定してください。初期設定：なし ☛ p.62

操作

PC Freeを起動します。☛ p.52

接続しているデジタルカメラやUSBストレージの内容が表示されます。

リモコンの[◎]ボタンを傾けて、スライドショーを実行するフォルダにカーソルを合わせます。

クイックモードの場合

(1) フォルダが開きます。
(2) 右下の「スライドショー」を選択して[決定]ボタンを押します。

ガイドモードの場合

(1) サブメニューが表示されます。
(2) 「スライドショー再生」を選択して[決定]ボタンを押します。

スライドショーが実行され、フォルダ内の画像・動画ファイルが順に1つずつ投写されます。

最後まで投写すると、自動的にファイル一覧表示に戻ります。オプション画面で「繰り返し再生」を「ON」に設定しているときは、最後まで投写すると最初から投写を繰り返します。☛ p. 62

シナリオと同様、スライドショー投写中は次画面に送る、前画面に戻す、再生を中止することができます。
☛「プレゼンテーション中の操作」p. 59

オプションで表示時間設定を「なし」に設定している場合、スライドショー再生を実行しても自動的にはファイルが切り替わりません。リモコンの[決定]または[⊡]ボタンを押して、次のファイルを投写します。

PC Freeで操作モードと画像・動画ファイルをスライドショー再生する場合の表示条件を設定できます。

操作

リモコンの[◎]ボタンを傾けて、表示条件を設定するフォルダにカーソルを合わせます。

クイックモードの場合

(1) フォルダが開きます。

(2) 左下の「オプション設定」を選択して[決定]ボタンを押します。

ガイドモードの場合

(1) サブメニューが表示されます。

(2)「オプション」を選択して[決定]ボタンを押します。

2 各項目を設定します。

変更したい項目の設定にカーソルを合わせ、リモコンの[決定]ボタンを押すと、設定が有効になります。
各項目の詳細は次の表のとおりです。

操作モード切替	PC Freeでの操作モードを「ガイドモード」または「クイックモード」に切り替えます。 初期設定は「ガイドモード」です。 ☛「ガイドモードとクイックモード」p. 54
表示順序設定	表示するファイルの順番を設定します。
繰り返し再生	繰り返しスライドショーを実行するかを設定します。
表示時間設定	スライドショー再生で、1つのファイルを表示する時間を設定します。ここで設定した時間が経過すると、自動的に次のファイルが表示されます。「なし」に設定すると、スライドショー再生を実行しても自動的にはファイルが切り替わりません。「なし」に設定した場合は、リモコンの[決定]または[⊡]ボタンを押して、次のファイルを表示します。
画面切替効果	ファイルの内容を表示するときの効果を設定します。

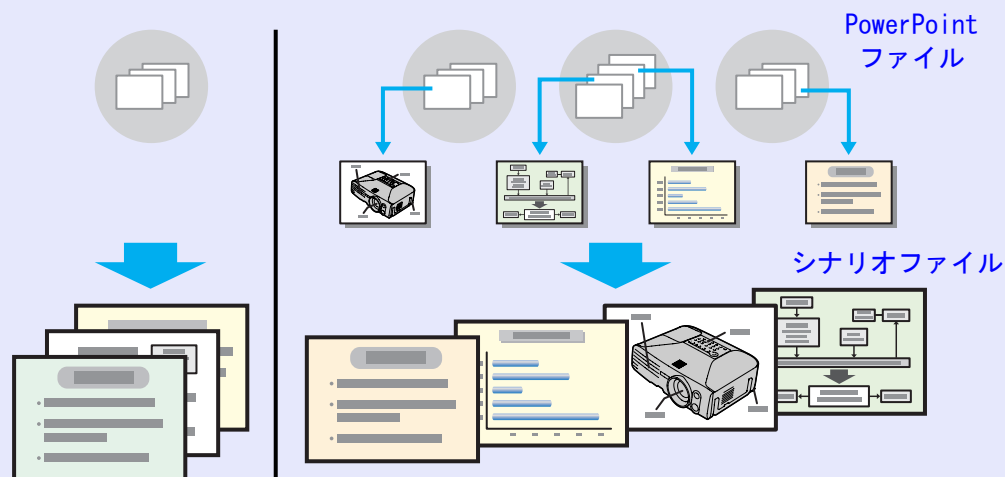
リモコンの[◎]ボタンを上に傾けて「OK」ボタンにカーソルを合わせ、[決定]ボタンを押します。

設定が適用されます。
設定を適用したくない場合は、「キャンセル」ボタンにカーソルを合わせて、[決定]ボタンを押します。

シナリオの準備（EMP SlideMaker2の使い方）

ここでは、シナリオの作成、転送方法について説明しています。

シナリオの概要

シナリオとは、PowerPointファイルや画像･動画ファイルを組み合わせて、投写する順番に並べて1つのファイルとして保存したもので、EMP SlideMaker2で作成します。
シナリオにすることで、元となるファイルを編集せずに、必要な部分を抽出、並び替えて、簡単に、そして効率的にプレゼンテーション資料を準備できます。

作成したシナリオは、コンピュータにセットしたUSBストレージに転送して格納します。そのUSBストレージをプロジェクターにセットして、プロジェクターのPC Free機能でシナリオを投写します。
USBストレージの接続 ☛『セットアップガイド』

EMP SlideMaker2はコンピュータにインストールして使います。
EMP SlideMaker2のインストール方法 ☛『かんたん接続ガイド』「EasyMP Softwareのインストール」

シナリオとして、1つのファイルに組み合わせることができるファイルは次のとおりです。

種類	ファイルタイプ（拡張子）	備考
PowerPoint	.ppt	Microsoft PowerPoint 2000/2002/2003
画像	.bmp	
	.jpg	バージョンを問いません。ただし、CMYKカラーモード形式、プログレッシブ形式のものは再生できません。
動画	.mpg	MPEG2-PS 再生可能なサイズが最大720×576までで、DVDと同じ（シーケンスヘッダがGOPごとに配置されている）形式でないと再生できません。 再生できる音声形式は、MPEG1レイヤー2です。リニアPCMとAC-3は再生できません。
音声	.wav	PCM、22.05/44.1/48.0kHz、8/16ビット

- PowerPointの「スライドショー」メニューで設定した画面切り替えの効果とアニメーションのうち、シナリオにも反映されるものは次のとおりです。

  •スライドイン　•ブラインド　•ボックス
  •チェッカーワイプ　•クロール　•ディゾルブ
  •ピーク　•ランダムストライプ　•スパイラル
  •スプリット　•ストレッチ　•ストリップ
  •ターン　•ワイプ　•ズーム

  上記以外の画面切り替えの効果は「カット」に、アニメーションは「規定のアニメーション（デフォルト：カット）」に置き換えられます。☛ p.82
- 左記の表にある画像・動画ファイルをファイル単独で再生したい場合は、シナリオにする必要はありません。USBストレージにファイルをそのまま保存したあとで、プロジェクターにセットすればPC Free機能で直接再生して投写できます。☛ p.60

本機以外のプロジェクターの同梱ソフトで作成したシナリオについて、本機のEMP SlideMaker2で開くことができるものとできないものは次表のとおりです。

プロジェクター	ソフト	本機のEMP SlideMaker2で開く
EMP-7950/7850 EMP-835 EMP-765/755/745/737 ELP-735	EMP SlideMaker2	○
ELP-8150/8150NL	EMP Scenario	×
ELP-715/505	EMP SlideMaker	×

PowerPointファイルをシナリオにするには、次の4つの方法があります。PowerPointファイルをそのまま利用したい場合は、(1)または(2)の方法で作成し、シナリオ作成後にスライドの順番を入れ換えたり、他の画像ファイルを追加したいときなどは(3)または(4)の方法で作成してください。

(1) EMP SlideMaker2アイコンへドラッグ＆ドロップ
EMP SlideMaker2を起動せずにデスクトップ上のEMP SlideMaker2アイコンへPowerPointファイルをドラッグ＆ドロップして作成します。 ☛「シナリオの簡易作成」p. 67

(2) ファイル一覧からドラッグ＆ドロップ
EMP SlideMaker2を起動して、ファイルウィンドウのPowerPointファイルをシナリオウィンドウにドラッグ＆ドロップして作成します。☛「シナリオの作成」p. 69

(3) ファイル一覧からPowerPointファイルを組み込む
EMP SlideMaker2を起動して、ファイルウィンドウのPowerPointファイルをダブルクリックしてシナリオに組み込みます。☛「シナリオの作成」p. 69

(4) サムネイルから必要なスライドだけを組み込む
EMP SlideMaker2を起動して、サムネイルからPowerPointのスライドを選択してシナリオに組み込みます。☛「シナリオの作成」p. 69

- (1)〜(3)の方法で作成した場合、PowerPointで設定した次のアニメーションはシナリオにも反映されます。

•スライドイン	•ブラインド	•ボックス
•チェッカーワイプ	•クロール	•ディゾルブ
•ピーク	•ランダムストライプ	•スパイラル
•スプリット	•ストレッチ	•ストリップ
•ターン	•ワイプ	•ズーム

- 上記以外のアニメーションは「規定のアニメーション」で設定したアニメーション(デフォルト:カット)に置き換えられます。☛ p.82
- (1)の方法で作成したシナリオの画質は「最高画質」「高画質」「標準」のうちの「標準」になります。より高い画質でシナリオを作成したい場合は、(2)〜(4)の方法で作成してください。

(1)〜(4)の方法の違いをまとめると以下のようになります。

	画質	アニメーションの反映	シナリオ転送
(1)	「標準」固定	反映される	引き続き操作※1
(2)	「最高画質」「高画質」「標準」から選択可	反映される	引き続き操作※1
(3)	「最高画質」「高画質」「標準」から選択可	反映される	引き続き操作※1
(4)	「最高画質」「高画質」「標準」から選択可	反映されない	あとで操作※2

※1 シナリオ作成が完了すると自動的にシナリオ転送画面が表示されます。
※2 シナリオ作成が終わったら、「シナリオの転送」☛ p. 79 を行ってください。

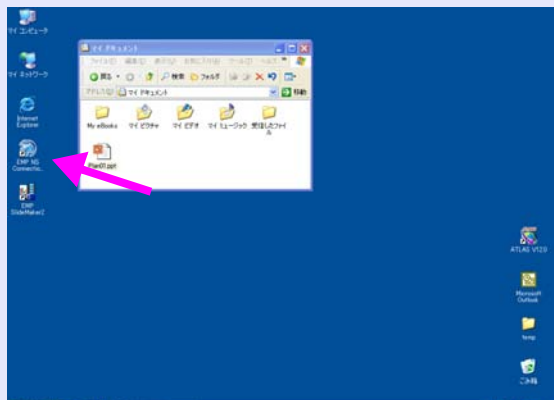
シナリオの簡易作成

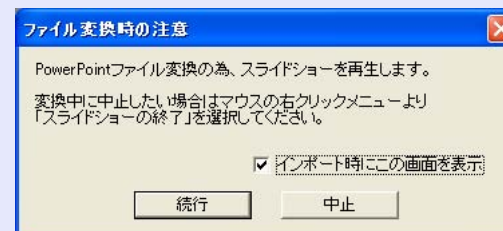
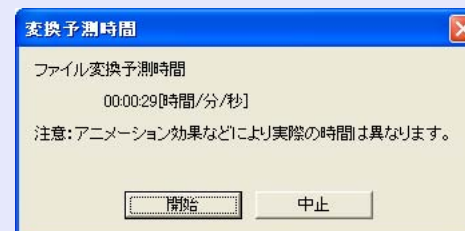
EMP SlideMaker2を起動せずにデスクトップ上のEMP SlideMaker2アイコンへPowerPointファイルをドラッグ＆ドロップして簡単にシナリオを作成する方法を説明します。

- EMP SlideMaker2起動中はドラッグ＆ドロップ操作でシナリオ作成はできません。EMP SlideMaker2を終了してから実行してください。
- ドラッグ＆ドロップ操作で作成されたシナリオには「Scnxxxx」(xxxxは数字)という名前が付きます。
- PowerPoint ファイルを複数選択してドラッグ＆ドロップした場合、マウスカーソルが指しているアイコンのファイルだけがシナリオになります。

操作

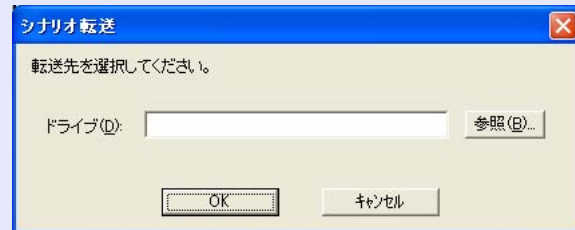
1. コンピュータにシナリオを格納する USB ストレージをセットします。

2. PowerPoint ファイルのアイコンを、デスクトップ上の EMP SlideMaker2のプログラムアイコン上へドラッグ＆ドロップします。

EMP SlideMaker2が起動します。

3. メッセージを確認し、「続行」ボタンをクリックします。

4. メッセージを確認し、「開始」ボタンをクリックします。

シナリオへの変換が始まります。変換中はスライドショーが表示されています。
途中でスライドショーを終了させるとシナリオは作成されずに終了します。

5. スライドショーが最後まで表示されたら、クリックして終了します。

シナリオの転送先を指定するダイアログが表示されます。

USB ストレージがセットされているドライブとフォルダを選択して「OK」ボタンをクリックします。

続いて、「シナリオの転送」☛ p. 79の手順3に進んでください。

シナリオの作成

シナリオを作成する前に、次の点を確認してください。

- PowerPoint、画像･動画などの組み合わせるデータは、あらかじめ作成しておきます。
- 前述の「シナリオに組み込めるファイル」に記載されているファイル以外は使用できません。☛ p.65

シナリオ作成の流れ

シナリオの作成は、次の流れで行います。

EMP SlideMaker2を起動し、シナリオのプロパティ（シナリオ名や背景色、画質など）を設定します。 ☛ p.69

シナリオで使うファイルをシナリオに組み込みます。
☛「PowerPointファイルをシナリオに組み込む」p.71
☛「画像や動画ファイルをシナリオに組み込む」p.76

組み込んだファイルの順番を入れ換えるなどして、シナリオを完成させます。 ☛ p.77

シナリオが完成したら、「シナリオ転送」を行います。☛ p.79

シナリオのプロパティを設定する

操作

1 コンピュータで Windows を起動し、「スタート」－「プログラム」（または「すべてのプログラム」）－「EPSON Projector」－「EMP SlideMaker2」の順に選択します。

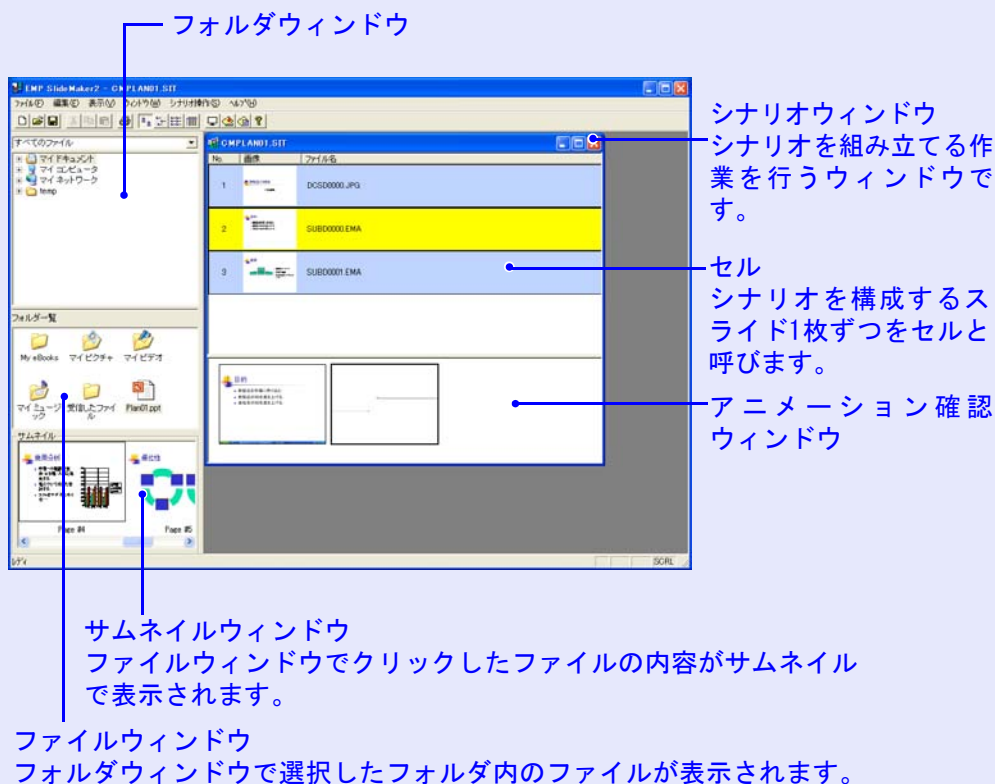
EMP SlideMaker2 が起動し、シナリオのプロパティが表示されます。

2 次の表を参照して各項目を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

シナリオ名	作成するシナリオのファイル名を入力します。必ず入力してください。アルファベットの大文字と数字を8文字まで入力できます。次項の作業用フォルダのディレクトリ名と合わせて127文字以内になるようにしてください。
作業用フォルダ	シナリオ作成時の作業用フォルダをどこに作成するかを指定します。なお、作業用フォルダ名はシナリオ名と同名になります。
BGMを設定する	シナリオ再生中にBGMを流したいときにチェックマークを付けます。チェックマークを付けると、音声ファイル(WAVE形式)を選択する画面が表示されます。この画面で、BGMとして使用するファイルを選択します。 音声ファイル選択後、右側の「▶」ボタンをクリックすると、選択した音声ファイルが再生されます。 「■」ボタンをクリックすると再生を停止します。
背景色	シナリオ中の画像データの背景を選択します。

画質	EMP SlideMaker2ではPowerPointファイルの各スライドがJPEGファイルに変換されて保存されます。この項目では、JPEGファイルに変換されるときの画質を選択します。 「最高画質」、「高画質」、「標準」の順に高画質で保存されます。「標準」に設定した場合は、他に比べて画質が粗くなります。「最高画質」、「高画質」を選択することをお勧めします。 なお、シナリオに直接JPEGファイルを組み込んだ場合は、この項目の設定にかかわらず、元のJPEGファイルの画質がそのまま適用されます。

設定した内容は、EMP SlideMaker2の「ファイル」－「プロパティ」で変更できます。

次の画面が表示されます。

EMP SlideMaker2の各メニューの機能については、EMP SlideMaker2のヘルプをご覧ください。

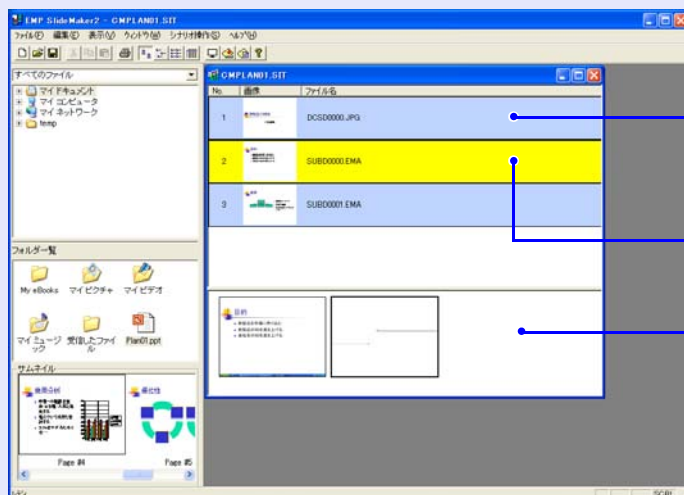
PowerPointファイルをシナリオに組み込む

PowerPointファイルは、次の3通りの方法でシナリオに組み込むことができます。

- PowerPointファイルをドラッグ&ドロップして全スライドを組み込む
- PowerPointファイルをダブルクリックして全スライドを組み込む ☛ p. 74
- サムネイルを確認しながら必要なスライドだけを組み込む ☛ p. 76

PowerPointファイル内の全スライドを組み込んだ場合、シナリオに組み込んだあともPowerPointで設定したアニメーションが保持され、PC Freeで投写する際にアニメーションが有効に働きます。
必要なスライドだけを組み込んだ場合は、PowerPointで設定したアニメーションはすべて無効となります。

PowerPoint内に組み込まれた動画ファイルは、シナリオ上では再生できません。

アニメーションを保持しているスライドは、シナリオウィンドウのセルに「.EMA」と表示されます。「.EMA」と表示されたセルをクリックすると、アニメーションの各動作がアニメーション確認ウィンドウに表示されます。
アニメーションを保持していないスライドはセルに「.JPG」と表示されます。

- お使いのコンピュータにPowerPointがインストールされていない場合は、サムネイルを表示することはできません。
- アニメーションは、EMP SlideMaker2のプロパティ画面でも設定できますが、あらかじめPowerPointで設定したアニメーションの方が、シナリオ再生時の動作がなめらかです。PowerPointのスライドにアニメーションを設定したい場合は、PowerPointで設定することをお薦めします。画像にアニメーションを設定したい場合や、設定したアニメーションを保持せずに、シナリオに組み込んだスライドにアニメーションを設定したい場合は、EMP SlideMaker2のプロパティ画面で設定してください。☛ p.82
- PowerPointで設定できるアニメーションで、以下のアニメーションはシナリオにも反映されます。

•スライドイン	•ブラインド	•ボックス
•チェッカーワイプ	•クロール	•ディゾルブ
•ピーク	•ランダムストライプ	•スパイラル
•スプリット	•ストレッチ	•ストリップ
•ターン	•ワイプ	•ズーム

上記以外のアニメーションは「規定のアニメーション(デフォルト:カット)」で設定されている内容に置き換えられます。☛ p.82

PowerPoint ファイルをドラッグ&ドロップして全スライドを組み込む

ファイルウィンドウのPowerPointファイルをシナリオウィンドウにドラッグ&ドロップして作成します。シナリオ作成が完了すると、自動的にシナリオ転送画面が表示されてシナリオの転送ができます。
この方法で組み込むと、シナリオに組み込んだあとも、PoworPointで設定したアニメーションがそのまま有効になります。

操作

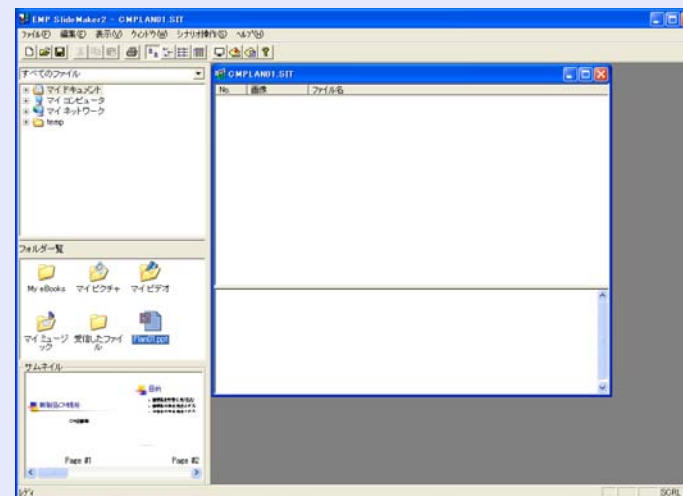
1. コンピュータにシナリオを格納するUSBストレージをセットします。

2. コンピュータでWindowsを起動し、「スタート」−「プログラム」(または「すべてのプログラム」)−「EPSON Projector」−「EMP　SlideMaker2」の順に選択します。

   EMP SlideMaker2が起動し、シナリオのプロパティが表示されます。

3. シナリオのプロパティを設定します。☛ p.69

4. ファイルウィンドウにシナリオにするPowerPointファイルを表示します。

5. ファイルウィンドウからシナリオウィンドウにPowerPointファイルをドラッグ＆ドロップします。

6. メッセージを確認し、「続行」ボタンをクリックします。

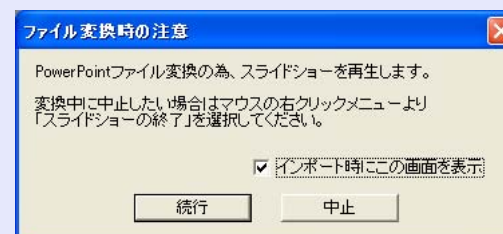
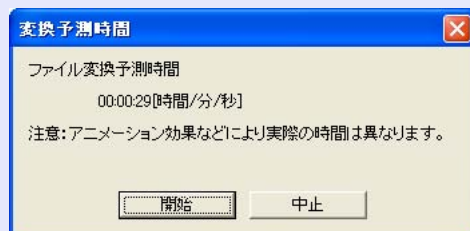
7 メッセージを確認し、「開始」ボタンをクリックします。

変換予測時間

ファイル変換予測時間

00:00:29[時間/分/秒]

注意:アニメーション効果などにより実際の時間は異なります。

開始　中止

シナリオへの変換が始まり、自動的にスライドショーが実行されます。
スライドショーの途中でキーボードの[Esc]キーを押すと、スライドショーが中止されます。その場合、シナリオは作成されずに終了します。

8 スライドショーが終了したら、画面をクリックします。

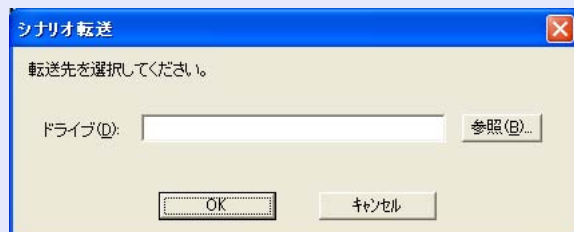
シナリオの転送先を指定するダイアログが表示されます。

9 USB ストレージがセットされているドライブとフォルダを選択して「OK」ボタンをクリックします。

シナリオ転送

転送先を選択してください。

ドライブ(D):　参照(B)...

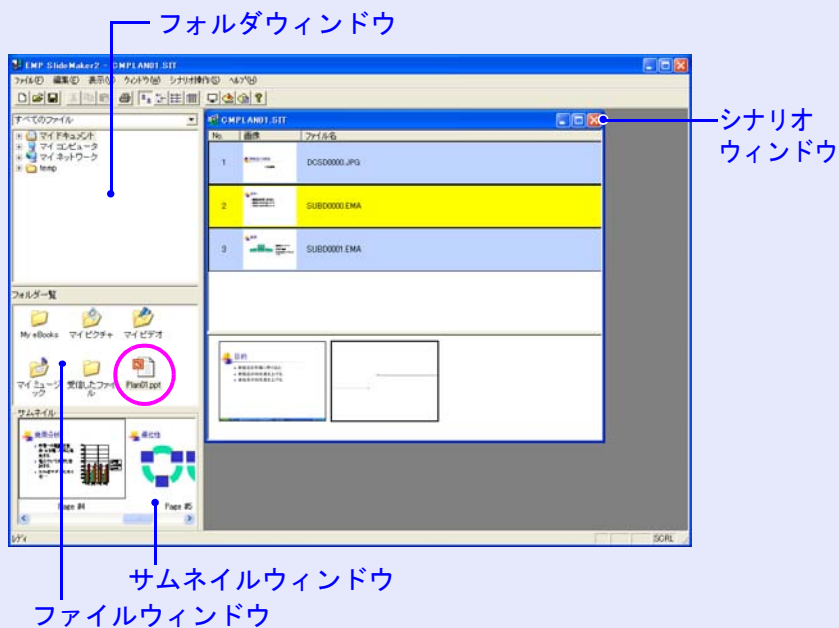
OK　キャンセル

続いて、「シナリオの転送」☛ p. 79の手順3に進んでください。

PowerPointファイル内の全スライドを組み込む

PoworPoint ファイル内の全スライドをまとめてシナリオに組み込むには、次の手順で行います。この方法で組み込むと、シナリオに組み込んだあとも、PoworPointで設定したアニメーションがそのまま有効になります。

1つのPowerPointのファイルをそのまま1つのシナリオにする場合は、シナリオの簡易作成で行うこともできます。
☛ p.67

操作

1 ファイルウィンドウで目的の PowerPoint ファイルアイコンをダブルクリックします。

2 メッセージを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

自動的にスライドショーが実行されます。
スライドショーの途中でキーボードの[Esc]キーを押すと、スライドショーが中止されます。その場合、途中まで実行したスライドはシナリオに組み込まれません。

PowerPointファイルの容量が大きい場合は、シナリオの組み込みが終了するまでに時間がかかります。

3 スライドショーが終了したら、画面をクリックします。

ファイル内の全スライドがシナリオに組み込まれ、シナリオウィンドウに表示されます。

サムネイルを確認しながら必要なスライドだけを組み込む

PowerPointファイルから必要なスライドだけを選んでシナリオにするには、次の手順で組み込みます。ただし、この方法で組み込むと、PowerPointで設定したアニメーションが無効になります。

操作

1. **ファイルウィンドウで目的の PowerPoint ファイルアイコンをクリックします。**

2. **シナリオに組み込むサムネイルをダブルクリックします。**

   目的のスライドがシナリオウィンドウに表示されます。

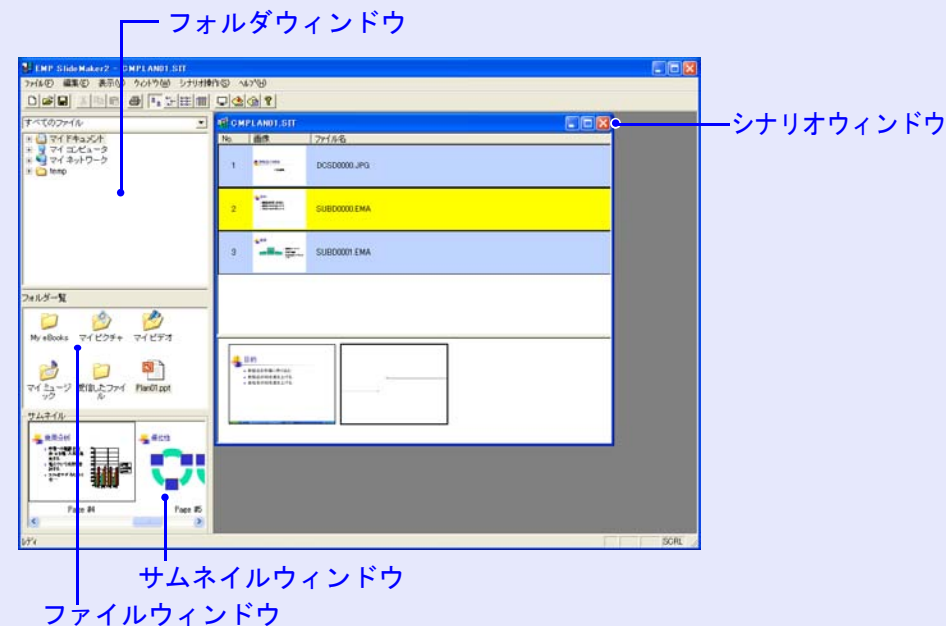
3. **複数のスライドを選択して一度に組み込むには、サムネイルウィンドウで、追加したいスライドを順次クリックしていきます。**

   クリックしたスライドはすべて選択されます。
   選択したスライドをもう1度クリックすると、選択が解除されます。

4. **追加したいスライドをすべて選択したら、選択したスライドの1つをシナリオウィンドウの追加したい場所にドラッグ＆ドロップします。**

   選択したスライドがすべてシナリオに追加されます。

画像や動画ファイルをシナリオに組み込む

画像ファイルや動画ファイルをシナリオに組み込みます。

操作

1. **フォルダウィンドウで、目的のフォルダをクリックします。**

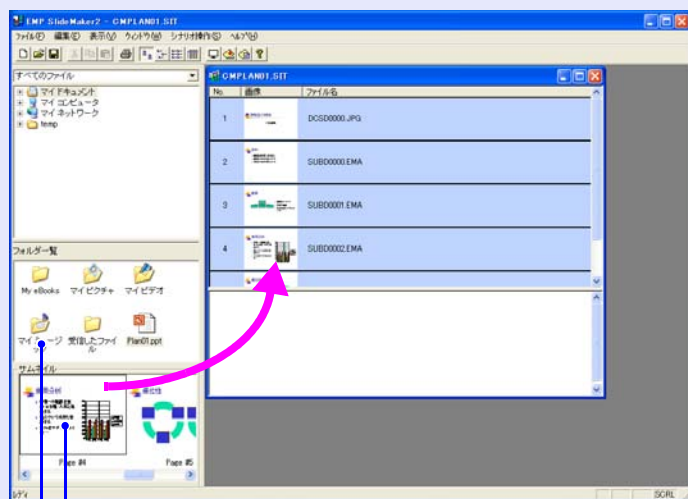
   ファイルウィンドウにフォルダ内のファイルが一覧で表示されます。

2 ファイルウィンドウでファイルアイコンをクリックします。

画像ファイルの内容がサムネイルウィンドウに表示されます。
動画ファイルの場合は、アイコンがサムネイルウィンドウに表示されます。

3 ファイルウィンドウで、目的のファイルアイコンをダブルクリックします。

選択したファイルがシナリオウィンドウ内に表示され、シナリオに組み込まれます。

4 ファイルを追加するには、目的のファイルをシナリオウィンドウにドラッグ&ドロップします。

目的のファイルやスライドをドラッグ&ドロップで
シナリオウィンドウ内に追加することができます。

5 複数のファイルを追加するには、キーボードの[Ctrl]キーを押したまま、追加したいファイルアイコンを順次クリックします。追加したいファイルをすべて選択したら、選択したファイルの1つをシナリオウィンドウの追加したい場所にドラッグ&ドロップします。

選択したファイルがすべてシナリオに追加されます。

ファイルの選択を解除するには、アイコン外の白い領域をクリックします。

シナリオを編集する

プロジェクターのPC Freeで投写したとき、シナリオウィンドウに表示されている内容が上から順番に投写されます。
スライドやファイルを追加、削除したり順番を入れ替えたりしてシナリオを編集できます。

ファイルやスライドを追加する

操作

ファイルウィンドウに表示されているファイルや、サムネイルウィンドウに表示されているPowerPointのスライドを、シナリオウィンドウの追加したい場所にドラッグ&ドロップします。

■ スライドを削除する

操作

削除したいセルでマウスを右クリックし、表示されたメニュー(ショートカットメニュー)で「クリア」または「切り取り」を選択します。

■ スライドの順番を入れ替える

操作

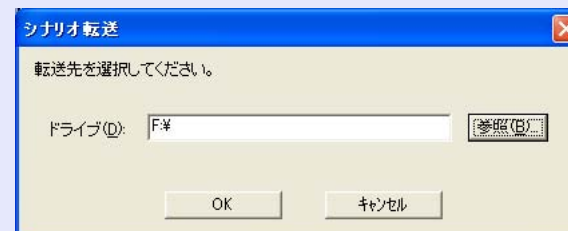
移動したいセルをシナリオウィンドウ内でドラッグ＆ドロップして入れ替えます。
または、ショートカットメニューを表示し、「切り取り」を選択後、「貼り付け」を実行して入れ替えます。

シナリオの転送

作成したシナリオをプロジェクターで投写するには、EMP SlideMaker2の「シナリオ転送」でUSBストレージにシナリオを転送します。
転送先にはコンピュータのUSB端子に接続しているハードディスクまたはUSBストレージを指定します。
シナリオをプロジェクター起動時に自動的に投写したり、繰り返して投写するように設定することもできます。自動的に投写する機能を「オートラン」といいます。

- 「シナリオ転送」を実行すると、シナリオファイルが「シナリオ名.sit」という名前で転送先に保存されます。また、シナリオ名と同名のフォルダが作られ、各画面が画質の設定に応じた画像ファイルに変換され、そこに保存されます。ただし、PC Free上ではシナリオと同名のフォルダは表示されません。
- 保存を行わずに「シナリオ転送」を実行した場合は、作業用フォルダ内にも「シナリオ名.sit」というファイルとシナリオ名と同名のフォルダが作られ、そこに各画面が画質の設定に応じた画像ファイルに変換され、保存されます。

操作

1. シナリオが完成したら、USBストレージをコンピュータにセットして「シナリオ操作」−「シナリオ転送」を選択します。
2. 転送先のドライブを指定するダイアログボックスが表示されます。USBストレージがセットされているドライブとフォルダを選択して「OK」ボタンをクリックします。

3. 確認メッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

シナリオが選択した場所に転送されます。

4 転送が終了すると、オートランの設定を行うか確認するメッセージが表示されます。オートランの設定をする場合は、「OK」ボタンをクリックして次の手順に進みます。設定をしない場合は、「キャンセル」ボタンをクリックすると終了します。

左側のシナリオファイルリストに、転送先ドライブ内のすべてのシナリオファイルが「フォルダ名/ファイル名」の形式で表示されます。

5 オートランを行う場合

プロジェクターの電源を入れたときに、シナリオを自動投写する場合は、シナリオファイルリストで目的のシナリオ名をクリックして、「」ボタンをクリックします。右側のオートランシナリオファイルリストにシナリオが表示され、オートランファイルとして設定されます。
指定するシナリオファイルのフォルダの階層が深かったり、フォルダ名が長いシナリオファイルは選択できません。

シナリオを繰り返し投写する場合

「オートランシナリオファイルリスト」に登録したシナリオの投写終了後、自動的に最初から投写し直す場合は、「繰り返し実行」にチェックマークを付けます。

- オートランの設定は、「シナリオ操作」-「オートラン編集」を選択しても実行できます。
- オートランの設定はEasyMPのPC Freeでは指定できません。
- オートランに設定したファイルが 2 つ以上ある場合は、オートランシナリオファイルリストの上から順に再生されます。

6 オートランを行うシナリオを設定したら、「OK」ボタンをクリックします。

7 コンピュータからUSBストレージを取り外します。

取り外す方法は、コンピュータの取扱説明書をご覧ください。

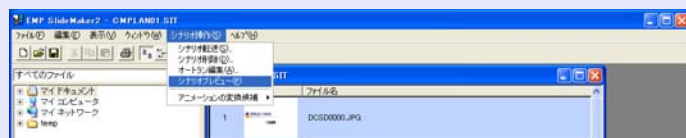
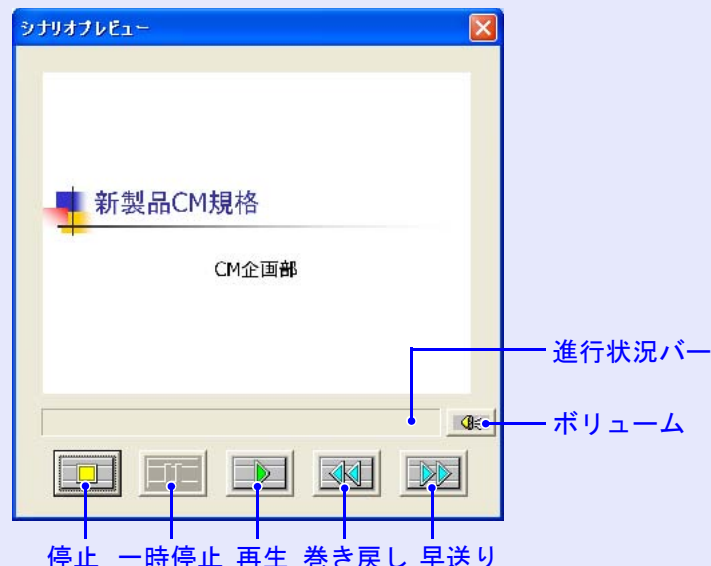
8 シナリオを転送した USB ストレージをプロジェクターにセットしてPC Freeで投写します。☛ p.58

コンピュータ上でシナリオの投写状態を確認する

作成したシナリオが、プロジェクターのPC Freeでどのように再生されるかを、コンピュータ上で確認できます。画像、アニメーション効果、BGMなどシナリオの構成要素をすべて再生します。

操作

1. EMP SlideMaker2で、確認したいシナリオを開きます。

2. 「シナリオ操作」－「シナリオプレビュー」を選択します。

シナリオプレビュー画面が表示されます。

各ボタンの機能は次表のとおりです。

停止	再生を中止し、一番前のスライドに戻ります。
一時停止	シナリオ動作が「自動」に設定されているスライドを一時停止します。 ☛ p. 83
再生	シナリオプレビューを開始します。また、停止または一時停止しているシナリオを再開します。シナリオ動作が「手動」に設定されている場合は、次のスライドを表示します。 ☛ p. 83
巻き戻し	現在表示しているスライドの1つ前のスライドまたはアニメーション実行前の画面に戻ります。戻る際はアニメーション効果は実行されません。
早送り	現在表示しているスライドの1つ先のスライドまたはアニメーション実行後の画面に進みます。このときアニメーション効果は実行されません。
ボリューム	Volume Controlを起動します。BGMの音の大きさを調整できます。
進行状況バー	シナリオの進行状況をバーで表示します。開始時はバーの表示はなく、進行するにしたがって左から右にバーが伸びていきます。一番右までバーが達すると終了です。

3. 確認し終わったら、画面右上の「×」ボタンをクリックしてシナリオプレビュー画面を閉じます。

規定のアニメーションを設定する

PowerPointで設定できるアニメーションで、次のアニメーションはシナリオにも反映されます。

・スライドイン	・ブラインド	・ボックス	・チェッカーワイプ
・クロール	・ディゾルブ	・ピーク	・ランダムストライプ
・スパイラル	・スプリット	・ストレッチ	・ストリップ
・ターン	・ワイプ	・ズーム	

上記以外のアニメーションをどのアニメーションに置き換えるかを設定できます(デフォルト:カット)。

操作

1. **EMP SlideMaker2を起動します。**

   プロパティ画面が表示されたら、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

2. **「シナリオ操作」-「アニメーションの変換候補」を選択します。**

3. **設定するアニメーションを選択します。**

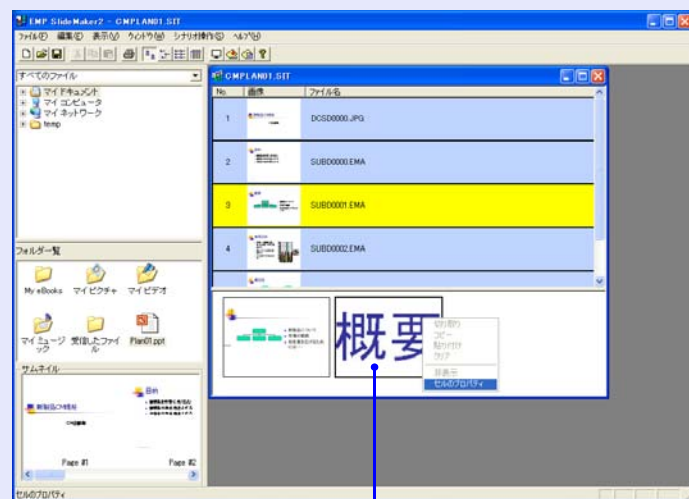
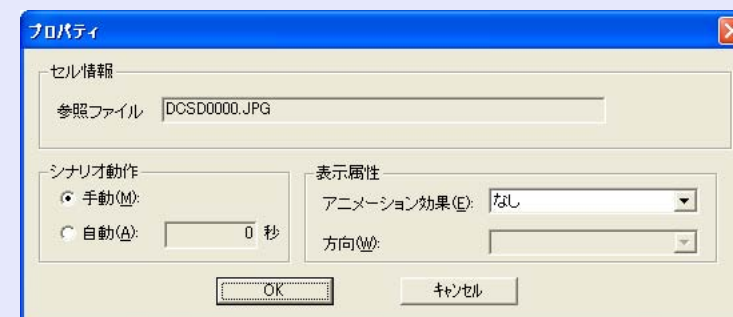
スライドのアニメーションを設定する

EMP SlideMaker2では、PowerPointのアニメーション効果と同様の効果をシナリオ内の各セルに設定できます。PowerPointで設定したアニメーションを保持しているスライドは、分割されたコマごとに投写時間やアニメーションを設定して投写することができます。この場合は、アニメーション確認ウィンドウで目的のアニメーションを右クリックして「セルのプロパティ」をクリックします。

あらかじめPowerPointでアニメーションを設定したファイルをシナリオに組み込んだ方が、シナリオ再生時のアニメーションの動作がなめらかです。PowerPointのスライドにアニメーションを設定したい場合は、PowerPointで設定することをお勧めします。画像ファイルにアニメーションを設定したい場合や、設定したアニメーションを保持せずに、シナリオに組み込んだスライドにアニメーションを設定したい場合は、ここで説明している方法で設定します。

操作

1 目的のセル、またはアニメーションで右クリックし、「セルのプロパティ」を選択します。

複数のセル、またはアニメーションに同じ設定をする場合は、キーボードの[Shift]キー、または[Ctrl]キーを押したままクリックして複数のセルを選択してから、右クリックして「セルのプロパティ」を選択します。

2 プロパティ画面が表示されます。次の表を参照して項目を設定し、「OK」ボタンをクリックします。

シナリオ動作	「自動」を選択した場合は、切り替える時間を0秒から1800秒の間で設定できます。「手動」にした場合は、投写時にリモコンの[⊡]または[⊡]ボタンを押して切り替えます。
アニメーション効果	投写中に画面を切り替えるときの効果を指定できます。 選択したアニメーションによっては、「方向」を選択します。 効果の一例を次に示します。 スライドイン：指定した方向から画面を切り替えます。 ボックスワイプイン：内側から画面を切り替えます。

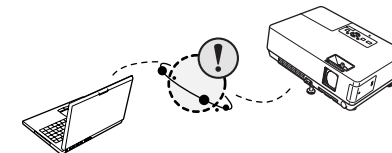
付録

まず、下記をご覧になりどのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。

EasyMPに関するトラブル

- ■ 突然EasyMP画面に切り替わってしまう ☛ p.86
- ■ Network Presentationで、映像が投写されたままになって他のコンピュータから接続できない ☛ p.86
- ■ EMP NS Connectionを起動してもプロジェクターが見つからない ☛ p.87
- ■ マニュアルモードまたは有線LAN接続で接続できない ☛ p.88
- ■ Network Presentationで映像が表示されない、表示が遅い、動画の映像や音が止まる ☛ p.89
- ■ Network Presentation使用時にPowerPointのスライドショーが動作しない ☛ p.89
- ■ Network PresentationでOfficeアプリケーション使用時に画面が更新されない ☛ p.89
- ■ EMP SlideMaker2でファイル指定ができない ☛ p.90
- ■ EMP NS Connection実行時のエラーメッセージ ☛ p.90
- ■ EMP SlideMaker2実行時のエラーメッセージ ☛ p.92

EMP Monitorによる監視・制御に関するトラブル

- ■ プロジェクターに異常が起きてもメールが送られてこない ☛ p.93
- ■ EMP Monitorでプロジェクターを制御・監視できない p.94

■ 突然EasyMP画面に切り替わってしまう

画面左下のERR:番号を確認して以下のとおり対処してください。

ERR番号	エラーの意味	対処法
2,50,53、245、-103	EasyMPの起動に失敗しました。	プロジェクターの電源を入れ直してください。
51,52,100	EasyMPの処理に失敗しました。	EMP NS Connectionを使用されている場合は、EMP NS Connectionを再接続してください。 USBディスプレイを使用されている場合は、USBケーブルを抜いて再度挿し直してください。
-101	アクセスポイントより通信が遮断されました。	アクセスポイントの動作を確認して下さい。
-102、-105	無線の通信状態が不安定になっています。	ネットワークトラフィック状況を確認して、しばらくしてからEMP NS Connectionを再接続してください。

■ Network Presentationで、映像が投写されたままになって他のコンピュータから接続できない

確認	対処法
プレゼンテーションした人がネットワーク接続を切断せずに会議室から出てしまっていませんか？	Network Presentationでは、コンピュータとプロジェクターが接続中に別のコンピュータから接続しようとすると、先に接続していたコンピュータとの接続を切断し、後から接続の操作をしたコンピュータと接続できます。 したがって、プロジェクターキーワードがプロジェクターに設定されていない場合や、プロジェクターキーワードを知っている場合は、接続操作をすれば現在の接続が切断され、プロジェクターと接続できます。 プロジェクターキーワードがプロジェクターに設定されていて、プロジェクターキーワードを知らない場合は、プロジェクター側から接続を切断して再接続します。プロジェクター側から接続を切断するには、リモコンの[戻る]ボタンを押し、表示された終了メニューで「終了する」を選択してリモコンの[決定]ボタンを押します。切断されたら、目的のコンピュータから接続します。 ☛「ネットワーク接続を切断する」

■ EMP NS Connectionを起動してもプロジェクターが見つからない

確認	対処法
無線LANユニットがセットされていますか？ 無線LAN接続の場合	プロジェクターに無線LANユニットが確実にセットされているか確認します。
プロジェクター側が環境設定メニューになっていませんか？	環境設定メニュー表示中はネットワーク接続が無効になります。環境設定メニューを終了して、EasyMP画面に戻してください。
コンピュータ側のLANカードや内蔵のLAN機能が使用できる状態になっていますか？	「コントロールパネル」－「システム」のデバイスマネージャなどでLANが有効になっているか確認してください。
有線LANのDHCP機能がONになっていませんか？ 無線LANのかんたんモードの場合	EasyMPの環境設定画面で有線LANのDHCP設定をOFFにしてください。☛「ネットワーク設定の機能一覧」
EMP NS Connectionで、使用するネットワークアダプタを正しく選択しましたか？	お使いのコンピュータが複数のLAN環境を持っている場合、EMP NS Connectionで使用するネットワークアダプタを正しく選択していないと接続できません。EMP NS Connectionを起動し、「環境設定」－「LAN切替」(Windows)、「環境設定」－「ネットワーク設定」(Macintosh)で使用するネットワークアダプタを選択してください。
無線LAN接続の場合、コンピュータの省電力設定で無線LANが使用不可の設定になっていませんか？	無線LANを使用可能にしてください。
コンピュータ側の無線LANの電波が微弱な設定になっていませんか？	電波強度は、できるだけ最大でお使いください。
お使いの無線LANは802.11g、802.11b、または802.11aに準拠していますか？	802.11g、802.11b、または802.11a以外の規格(802.11など)には対応していません。
ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？ オプションの有線LANユニットの場合	ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認します。接続されていなかったり間違って接続されている場合は、接続し直します。

■ マニュアルモードまたは有線LAN接続で接続できない

確認	対処法
ESSIDの設定が異なっていませんか？	コンピュータやアクセスポイントとプロジェクターを同じESSIDに設定してください。 ☛「アクセスポイントへの無線LAN接続」
同一のWEPキーを設定していますか？	「セキュリティ」でWEPを選択した場合は、アクセスポイントやコンピュータとプロジェクターを同じWEPキーに設定してください。☛「アクセスポイントへの無線LAN接続」
アクセスポイント側でMACアドレス制限、ポート制限などの接続拒否機能を正しく設定していますか？	アクセスポイント側でプロジェクターを接続許可に設定してください。
アクセスポイントとプロジェクターのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスが正しく設定されていますか？	DHCPを使用しない場合は各設定を合わせてください。☛「ネットワーク設定の機能一覧」
アクセスポイントとプロジェクターのサブネットが異なっていませんか？	EMP NS Connectionの「指定接続」を選択し、IPアドレスを指定して接続してください。 ☛「接続したいプロジェクターが表示されないときは」「IPアドレスやプロジェクター名を指定して検索(マニュアルモードのとき)」

■ Network Presentationで映像が表示されない、表示が遅い、動画の映像や音が止まる

確認	対処法
Media Playerで動画を再生したり、スクリーンセーバのプレビューを実行しようとしませんでしたか？	コンピュータによっては、Media Playerによる動画再生画面が表示されなかったり、スクリーンセーバのプレビューが正常に表示されないことがあります。
WEP暗号化を有効にしたり、複数台のプロジェクターに接続していませんか？	WEP暗号化有効の場合や、複数台接続を行ったときは、表示速度が低下します。
無線LANのアクセスポイントモードまたは有線LANで、DHCPを有効にしていませんか？	マニュアルモードまたは有線LAN接続でDHCP有効に設定しているときに、接続可能なDHCPサーバが見つからないと、EasyMPの待機状態になるのに時間がかかります。
動画再生中にEMP NS Connectionを起動したり、解像度や色数を変更しませんでしたか？ Macintoshの場合	動画再生するときは、EMP NS Connectionを起動してから再生操作をしてください。動画再生中にEMP NS Connectionを起動したり、表示画面の解像度や色数を変更した場合は、動画再生ウィンドウを移動する、または最小化し元に戻す等の操作を行ってください。
無線LANが802.11ｇ/ｂで「かんたんモード」でお使いではありませんか？	電波の環境によっては動画の映像や音が止まることがあります。動画転送機能をお使いになるときは、「マニュアルモード」または、無線LANを802.11ａの「かんたんモード」でお使いください。

■ Network Presentation使用時にPowerPointのスライドショーが動作しない

確認	対処法
PowerPointを起動中に、EMP NS Connectionを起動しませんでしたか？ Windowsの場合	Network Presentationで接続する際は、事前にPowerPointを終了してください。起動したまま接続するとスライドショーが動作しなくなることがあります。

■ Network PresentationでOfficeアプリケーション使用時に画面が更新されない

確認	対処法
マウスを絶えず動かし続けていませんか？	マウスカーソルの移動を止めると画面が更新されます。画面がなかなか更新されない場合は、マウスカーソルの動きを止めてください。

■ EMP SlideMaker2でファイル指定ができない

確認	対処法
使おうとしているPowerPointファイル(.ppt)は、PowerPoint 95/97の形式ではありませんか？	PowerPoint 95/97で作成したファイルやPowerPoint 95/97形式で保存してあるファイルはEMP SlideMaker2で編集できません。一度、PowerPoint 2000/2002/2003で保存し直してから利用してください。 ☛「シナリオに組み込めるファイル」
PowerPointファイル(.ppt)をシナリオに貼り付けることができなかったりサムネイルに表示できない場合、Microsoft OfficeのJPEGコンバータがインストールされていますか？	JPEGコンバータをインストールしてください。JPEGコンバータのインストールについては、Microsoft Officeの取扱説明書をご覧ください。

■ EMP NS Connection実行時のエラーメッセージ

確認	対処法
プロジェクターとの接続に失敗しました。	再度、接続の操作をします。それでも接続できない場合は、コンピュータ側のネットワーク設定とプロジェクター側のEasyMPのネットワーク設定を確認してください。 EasyMPのネットワーク設定について ☛「アクセスポイントへの無線LAN接続」
キーワードが一致しません。プロジェクターに表示された、正しいキーワードを入力してください。	EasyMP画面に表示されているプロジェクターキーワードを確認し、そのプロジェクターキーワードを入力してください。
選択されたプロジェクターは使用中です。接続処理を続行しますか？	別のコンピュータが接続しているプロジェクターに接続しようとしました。 「はい」ボタンをクリックすると、プロジェクターと接続します。このとき、接続していた別のコンピュータとプロジェクターの接続は切断されます。 「いいえ」ボタンをクリックすると、プロジェクターと接続しません。 別のコンピュータとプロジェクターの接続は保持されます。
EMP NS Connection の初期化に失敗しました。	EMP NS Connectionを再起動してください。それでもメッセージが出るときは、EMP NS Connection をいったんアンインストールして、その後もう一度EMP NS Connection をインストールしてください。 ☛『かんたん接続ガイド』「EasyMP Software のインストール」

確認	対処法
キーワードが間違っていたため接続できません。	プロジェクターキーワードが設定されているプロジェクターへの接続時に、間違ったプロジェクターキーワードを入力しました。 プロジェクターキーワードは、プロジェクターの接続待機画面に表示されていますので確認してください。いったん接続を切断してから、再接続して接続時に表示されるキーワード入力画面で、そのプロジェクターキーワードを入力します。 ☛「アクセスポイントへの無線LAN接続」
ネットワークアダプタの情報取得に失敗しました。	次の点を確認します。 • コンピュータにネットワークアダプタが装着されていますか。 • コンピュータに、使用するネットワークアダプタのドライバがインストールされていますか。 確認後、コンピュータを再起動して、もう一度接続の操作を行います。 それでも接続できない場合は、次を確認してください。 コンピュータ側のネットワーク設定とプロジェクター側のネットワーク設定を確認してください。 ネットワーク設定について ☛「プロジェクターのネットワーク設定」
SXGAを超える解像度をサポートしていないプロジェクターがあります。パソコンの解像度を下げて再接続してください。	接続先のプロジェクターの中にELP-735があります。コンピュータの画面の解像度を、SXGA(1280×1024)以下に変更してください。
応答しないプロジェクターが存在します。	複数のプロジェクターに同時に接続しようとしましたが接続できませんでした。コンピュータ側のネットワーク設定とプロジェクター側のEasyMPのネットワーク設定を確認してください。 ネットワーク設定について ☛「プロジェクターのネットワーク設定」
プロジェクターに表示されたキーワードを入力してください。	EasyMP画面に表示されているプロジェクターキーワードを確認し、そのプロジェクターキーワードを入力してください。

■ EMP SlideMaker2実行時のエラーメッセージ

確認	対処法
.SIT は既に登録されています。 (はシナリオファイル名)	すでに「オートランシナリオファイルリスト」に追加されているシナリオファイルを、もう一度追加することはできません。 ☛「シナリオの転送」
フォルダ階層が深いため、そのシナリオファイルは選択できません。	「オートランシナリオファイルリスト」に追加するシナリオファイルがあるフォルダの階層が深いため、選択できません。目的のシナリオファイルの転送先を変更してください。 ☛「シナリオの転送」
ディスクの空き容量が不足しています。	シナリオ転送先ドライブの空き容量が不足しており、シナリオを転送できません。不要なファイルを削除するなどして、シナリオファイルを転送できるように転送先ドライブの空き容量を確保してください。
** には無効なパスが含まれています。 (** はシナリオファイル名を含むパス名)	開こうとしたファイルのパスが見つかりませんでした。次の原因が考えられます。 ・最後にEMP SlideMaker2で保存した以降に、シナリオファイルを他のフォルダに移動した。 ・最後にEMP SlideMaker2で保存した以降に、シナリオファイルがあるフォルダ名を変更した。 ・開こうとしたシナリオファイルが削除されている。 「ファイル」ー「開く」を選択して目的のシナリオファイルを開くか、Windows のファイル検索機能などを使って検索してください。
** へのアクセス中にディスクがいっぱいになりました。 (** はシナリオファイル名を含むパス名)	作業用フォルダがあるドライブの空き容量が不足しており、シナリオファイルを保存できませんでした。不要なファイルを削除するなどして、シナリオファイルを保存できるように作業用フォルダがあるドライブの空き容量を確保してください。
指定されたドキュメントはオープンできません。	シナリオに追加しようとしたPowerPoint ファイルが壊れているか、正しくないため使用できません。他のPowerPoint ファイルを使用してください。
違う名前か、違うディレクトリを指定してください	同名のファイルがすでに存在しています。シナリオ名を変更して、保存してください。

■ プロジェクターに異常が起きてもメールが送られてこない

確認	対処法
無線LANユニットがセットされていますか？	プロジェクターに無線LANユニットが確実にセットされているか確認します。
ネットワークに接続するための設定は正しいですか？	プロジェクターのネットワークの設定を確認してください。 ☛「ネットワーク設定の機能一覧」
「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもメール通知機能を使うためには、環境設定メニューの「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定します。☛『取扱説明書』「拡張設定」
致命的な異常が発生し、プロジェクターが瞬時に起動停止状態になっていませんか。	瞬時に起動停止した場合はメール送信できません。 プロジェクターを確認しても異常状態が復帰しない場合は、お買い上げの販売店またはエプソンサービスコールセンターに修理を依頼してください。
プロジェクターに電源が供給されていますか？	プロジェクターが設置されている地域が停電になっていたり、プロジェクターの電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。
ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？ オプションの有線LANユニットの場合	ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認します。接続されていなかったり間違って接続されている場合は、接続し直します。

■ EMP Monitorでプロジェクターを制御・監視できない

確認	対処法
無線LANユニットがセットされていますか？ 無線LAN接続の場合	プロジェクターに無線LANユニットが確実にセットされているか確認します。
ネットワークに接続するための設定は正しいですか？	プロジェクターのネットワークの設定を確認してください。 ☛「ネットワーク設定の機能一覧」
コンピュータにEMP Monitorが正しくインストールされていますか？	EMP Monitorをアンインストールしてから、再度インストールしてください。
制御・監視したいすべてのプロジェクターがプロジェクターリストに登録されていますか？	プロジェクターリストに登録してください。☛『EMP Monitor操作ガイド』
「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもEMP Monitorを使うためには、環境設定メニューの「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定します。☛『取扱説明書』「拡張設定」
プロジェクターに電源が供給されていますか？	プロジェクターが設置されている地域が停電になっていたり、プロジェクターの電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。
ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？ オプションの有線LANユニットの場合	ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認します。接続されていなかったり間違って接続されている場合は、接続し直します。

■ EMP Monitor実行時のエラーメッセージ

確認	対処法
パスワードが正しくありません。	まちがったパスワードを入力しました。正しいパスワードを入力してください。パスワードを忘れてしまった場合は、環境設定メニューの「ネットワーク」から「ネットワーク設定」を起動し、「基本設定」で「WEB制御パスワード」を確認してください。
入力されたIP アドレスのプロジェクターに接続できません。	接続したいプロジェクターのネットワーク設定で、有線LANまたはマニュアルモード(無線LAN)を使う設定になっているか確認します。「無線LAN」で「かんたんモード」が選択されている場合は、「マニュアルモード」に設定を変更します。 次に「有線LAN」、または「無線LAN」で「IPアドレス」を確認し、その「IPアドレス」でマニュアル登録をしてください。 ☛『EMP Monitor 操作ガイド』 それでも接続できない場合は、コンピュータ側のネットワーク設定と、プロジェクター側のネットワーク設定を確認してください。 ネットワーク設定について ☛「プロジェクターのネットワーク設定」

本書で使用している用語で、本文中に説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に説明します。詳細については市販の書籍などを利用してください。

DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、IPアドレスを自動的に割り当てるプロトコルのことです。
DPOF	Digital Print Order Formatの略で、デジタルカメラで撮影した写真をプリントするための情報(プリントしたい写真とその枚数の指定など)を、メモリカードなどの記録媒体に記録するフォーマットです。
DVI	Digital Visual Interface の略で、ビデオ信号をデジタル伝送する規格のことをいいます。 DVI はパソコン以外にデジタル家電もターゲットにした規格であり、DFP よりも高解像度の画像が転送でき、デジタル信号の暗号化機能もあります。
ESSID	ESSとはExtended Service Set(拡張サービスセット)の略です。ESSIDは、無線LANの環境で相手と接続するための識別データです。ESSIDが一致している機器どうしで無線通信できます。
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピュータを識別するための数字のことです。
MACアドレス	Media Access Controlアドレスの略です。MACアドレスはネットワークアダプタごとの固有のID番号です。すべてのネットワークアダプタは1つずつ固有の番号が割り当てられており、これをもとにネットワークアダプタ間の送受信が行われます。
NDIS	Network Driver Interface Specificationの略で、Microsoft社などによって取り決められた、無線LANカードなどのネットワークカードの機能を利用するためのネットワークドライバの標準仕様です。OSやアプリケーションソフトとドライバが通信するための手順や、ドライバとネットワークカードが通信するための手順などを規定しています。
RADIUSサーバ	「RADIUS」はRemote Authentication Dialin User Serviceの略で、無線LANをはじめとする、様々なネットワークサービスでの認証に利用されるプロトコルです。RADIUSサーバはRADIUSを使用した認証サーバで、ユーザー名やパスワードなどの情報を持ち、無線LANアクセスポイントへのアクセスに対する認証を集中的に行います。RADIUSサーバを利用すると、無線LANアクセスポイントが複数ある場合でも、各アクセスポイントに個別にユーザー情報を登録する必要がなく、アクセスポイントやユーザーを集中管理することができます。
SNMP	Simple Network Management Protocolの略で、TCP/IPネットワークにおいて、ルータやコンピュータ、端末など、ネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
SVGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横800ドット×縦600ドットのものを呼びます。
SXGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,280ドット×縦1,024ドットのものを呼びます。
USB	Universal Serial Busの略で、比較的低速な周辺機器とパソコン間を接続するためのインターフェイスです。
UXGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,600ドット×縦1,200ドットのものを呼びます。
VGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横640ドット×縦480ドットのものを呼びます。

XGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,024ドット×縦768ドットのものを呼びます。
アドホック	無線LANの通信方式の一つで、アクセスポイントを経由せずに機器同士が直接通信を行なう方式です。同時に2台以上の機器と通信することはできません。
仮想ディスプレイ	1台のコンピュータから複数台のディスプレイに画面出力を行います。複数台のディスプレイを使って仮想的な大画面を実現します。
ゲートウェイ	サブネットマスクによって分割したネットワーク(サブネット)を超えて通信するためのサーバ(ルータ)のことです。
サブネットマスク	IPアドレスから、分割したネットワーク(サブネット)のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
チャンネル	同じ周波数を使用して無線通信する機器が多いと、通信速度が低下します。その場合、無線LANネットワークごとに無線チャンネルを設定することで、他の無線LANの干渉を避けることができます。
SNMPトラップIPアドレス	SNMPで異常を通知する場合の、通知先のコンピュータのIPアドレスのことです。
認証サーバ	ユーザー認証を集中的に行なうためのサーバです。認証サーバを使うと、ユーザー情報の管理とユーザー認証作業を一元化することができます。また、認証サーバは高度な認証方式を備えていることが多いため、セキュリティ対策にも有効です。

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
(5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
(7) 本書中のイラストと本体の形状は異なる場合があります。

本製品を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源ケーブルは販売国の電源仕様に基づき同梱されています。本機を販売国以外で使用する際には、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源ケーブルを現地にてお求めください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

電源高調波について

この装置は、JIS C 61000-3-2「高調波電流発生限度値」に適合しております。

商標について

IBM、DOS/V、XGAは、International Business Machines Corp.の商標または登録商標です。
Macintosh、Mac、iMacは、Apple Computer Inc.の登録商標です。
Windows、WindowsNT、VGAは米国マイクロソフト社の商標または登録商標です。
ドルビーはドルビーラボラトリーズの商標です。
Cisco Systemsは米国その他の国におけるシスコシステムズ株式会社の登録商標です。
Pixelworks、DNXはPixelworks社の商標です。
EasyMPはセイコーエプソン株式会社の商標です。
なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

ソフトウェアの著作権について

本装置は当社が権利を有するソフトウェアの他にフリーソフトウェアを利用しています。
本装置に利用にされているフリーソフトウェアに関する情報は下記のとおりです。

1. GPLおよびLGPL
   (1) 当社は、GNU General Public License Version 2, June 1991またはそれ以降のバージョン(以下「GPL」)およびGNU LESSER General Public License Version 2, June 1991またはそれ以降のバージョン(以下「LGPL」)の適用対象となるフリーソフトウェアを本装置に利用しています。
   GPLおよびLGPLの全文は以下のWebサイトでご覧いただけます。
   [GPL]http://www.gnu.org/licenses/gpl.html
   [LGPL]http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html
   当社は、本装置に含まれるGPLおよびLGPLの適用対象となるフリーソフトウェアについてGPLおよびLGPLに基づきソースコードを開示しています。
   当該フリーソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、別紙記載のサポート窓口までご連絡ください。
   なお、当該フリーソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はGPLおよびLGPLの条件に従ってください。
   また、当該フリーソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性なら

びに第三者の権利(特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない)を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。

(2) 上記(1)のとおり、本装置に含まれるGPLおよびLGPLの適用対象となるフリーソフトウェア自体の保証はありませんが、本装置の不具合(当該フリーソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社による保証の条件(保証書記載)に影響はありません。

(3) 本装置に含まれるGPLおよびLGPLの適用対象となるフリーソフトウェアおよびその著作者は(1)にて開示するソースコード内に記載してあります。

2. その他フリーソフトウェア

当社は、GPLおよびLGPLの適用対象となるフリーソフトウェア以外に以下のフリーソフトウェアを本装置に利用しています。
以下、それぞれの著作者および条件等を原文にて記載します。なお、これらのフリーソフトウェアはその性格上フリーソフトウェア自体の保証はありませんが、本装置の不具合(当該フリーソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社による保証の条件(保証書記載)に影響はありません。

(1) libjpeg

Copyright© 1991-1998 Thomas G. Lane.

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

(2) libpng

Copyright© 1998-2004 Glenn Randers-Pehrson

Copyright© 1996-1997 Andreas Dilger

Copyright© 1995-1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

(3) Tremor

Copyright© 2002, Xiph.org Foundation

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(4) zlib

Copyright© 1995-2003 Jean-loup Gailly and Mark Adler

(5) thttpd

Copyright© 1995,1998,1999,2000,2001 by Jef Poskanzer <jef@acme.com>